

II 和歌山県の農林水産業の動向

1 農業部門

1) 農業指標

本県の総農家数は33,799戸、うち販売農家数23,207戸である。販売農家のうち専兼別の比率は専業41.6%、1種兼業16.6%、2種兼業41.8%で兼業農家の比率がやや高い。(2010年「世界農林業センサス」結果より) 耕地面積は34,600haであり、その利用形態は水田29.8%、樹園地62.7%、普通畑 7.5%である。農業産出額は9,930千万円(構成比:米9.0% 果実60.2% 野菜15.9% 花き5.4% 畜産5.2%)

	平成22年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
総農家	戸	%	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸
販売農家	23,207	(100.0)	4,444	3,872	2,700	3,921	4,450	3,300	520
専業	9,644	28.5 (41.6)	1,713	1,519	969	1,791	1,903	1,484	265
1種兼	3,854	11.4 (16.6)	567	606	435	854	802	560	30
2種兼	9,709	28.7 (41.8)	2,164	1,747	1,296	1,276	1,745	1,256	225
	平成25年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
耕地面積	ha	%	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
水田	10,300	29.8	2,725	1,975	1,025	560	2,055	1,308	620
樹園地	21,700	62.7 (100.0)	2,960	3,342	2,900	5,082	3,642	3,648	144
みかん	7,910	(36.5)	1,876	846	228	3,907	360	700	6
はっさく	1,040	(4.8)	103	561	70	123	155	25	3
うめ	5,590	(25.8)	120	199	187	56	2,545	2,471	13
もも	773	(3.6)	49	586	135	2	1	0	0
かき	2,770	(12.8)	265	651	1,831	11	9	4	3
普通畑	2,580	7.5	612	218	157	256	838	309	185
	平成25年		海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁
農業産出額	千万円	%	千万円	千万円	千万円	千万円	千万円	千万円	千万円
農業産出額	9,930	100.0	1,660	1,708	1,119	1,901	2,294	1,089	127
米	890	9.0	236	171	89	49	178	113	54
果実	5,980	60.2	819	1,055	823	1,548	889	844	3
野菜	1,580	15.9	470	276	76	54	668	19	17
花き	540	5.4	22	53	14	59	372	20	1
畜産	520	5.2	67	61	χ	85	χ	20	χ

※ ラウンドしているため、各数値の積上げが、合計と一致しない場合があります。

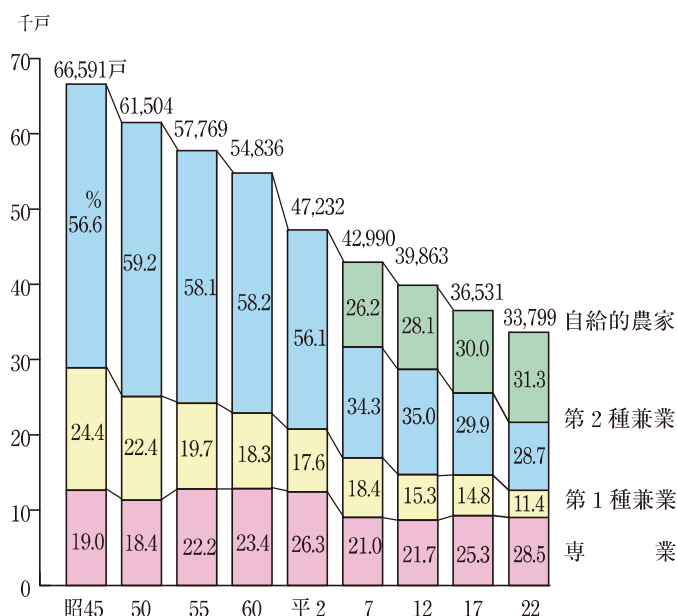
※ 「χ」は、統計法に基づく秘密保護のため、公表されていないものです。

(2010年世界農林業センサス・農林水産統計年報・市町村別統計検討協議会調べ)

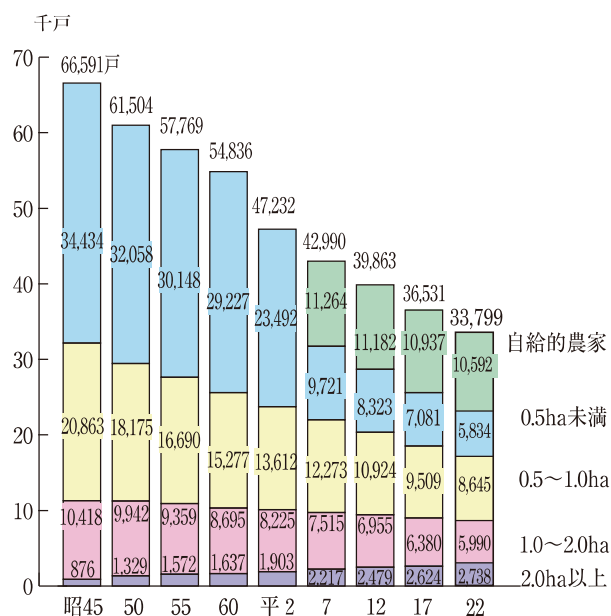
2) 農業を担う人々

平成22年の農家戸数は33,799戸で減少傾向が続いている。経営規模が1ha未満の農家が74.2%を占める。年齢別の基幹的農業従事者では60歳以上の占める割合が68.5%と増加している。平成7年以降、新規就農者数は増加傾向にある。

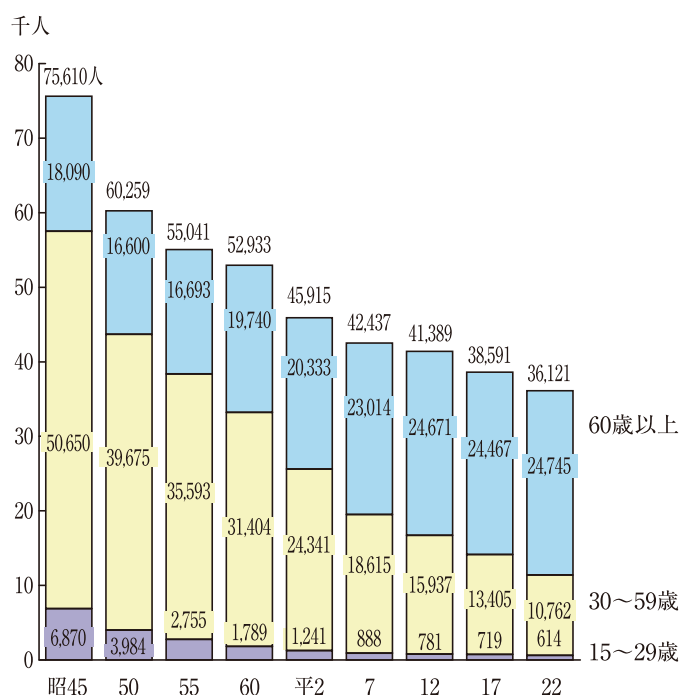
専兼業別農家数の推移



経営規模別農家数の推移



基幹的農業従事者数（年齢別）の推移

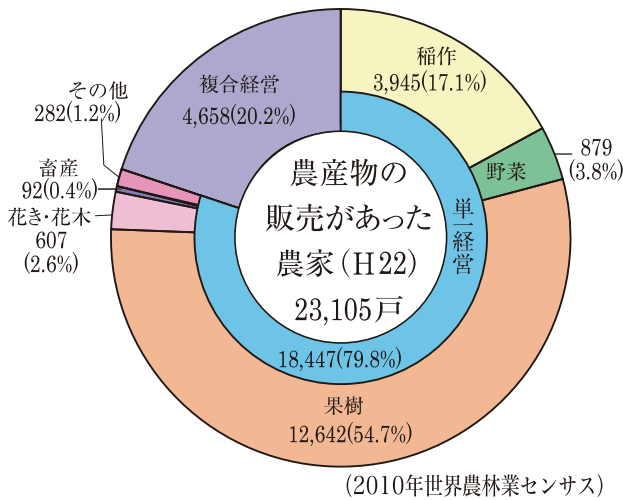


〔平22〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名
総農家数	2,527,948	33,799	36	1.3	長野	茨城
販売農家数	1,631,206	23,207	33	1.4	茨城	福島

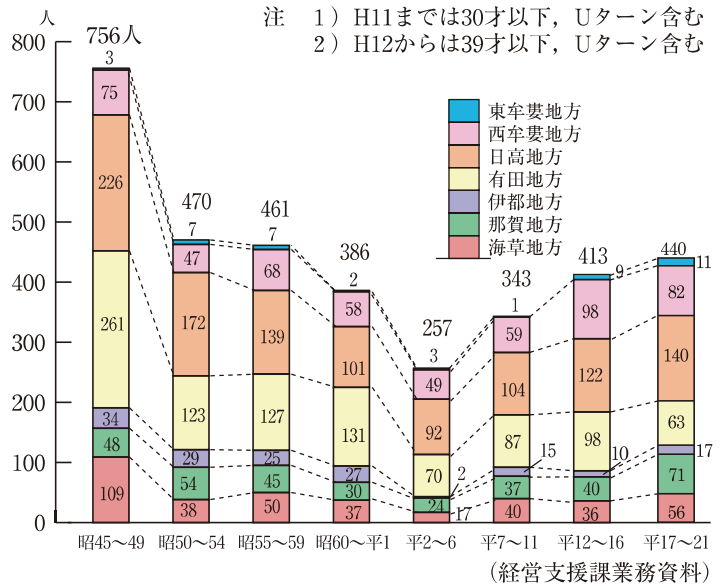
(2010年世界農林業センサス)

※本調査は、平成8年より調査対象が変更（総農家→販売農家）されていますので、ご利用の際は、ご注意ください。

農業経営組織別農家数（平成22年）



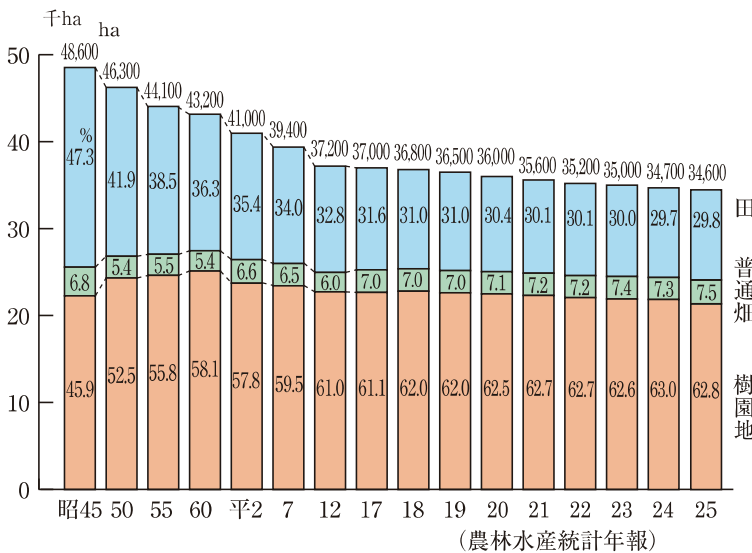
新規就農者数の推移



3) 耕地面積

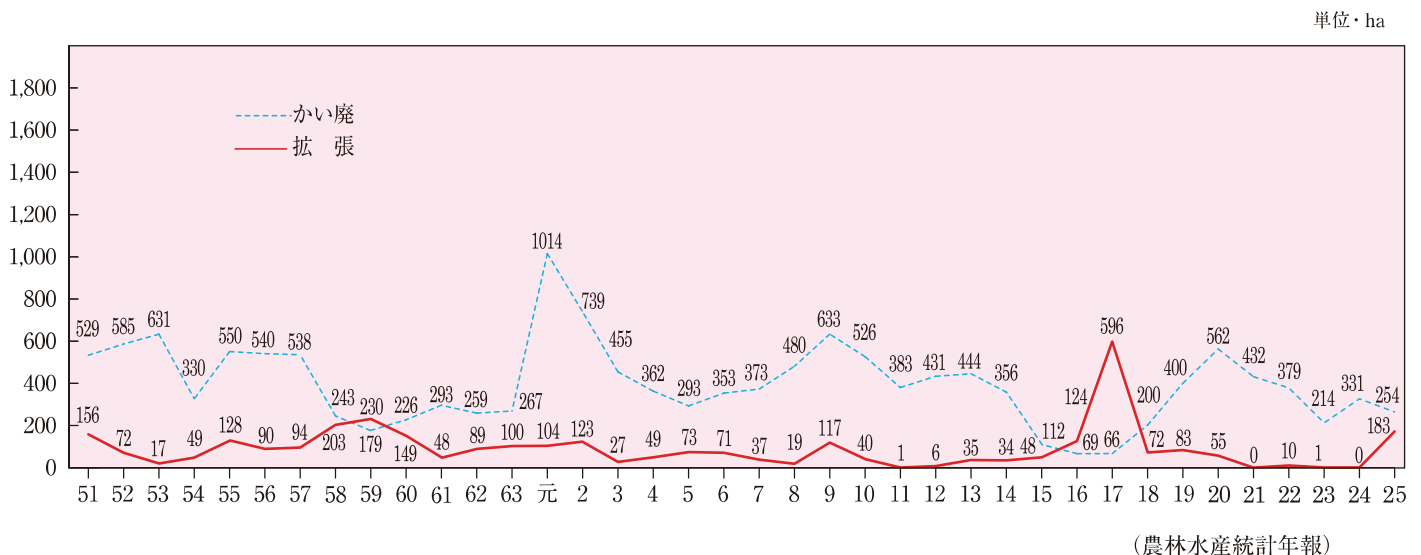
耕地面積は減少傾向にあるなかで樹園地の比率が高まっている。
施設面積は平成9年の909ha(耕地面積の2.3%)をピークに減少している。

田畑別耕地面積の推移

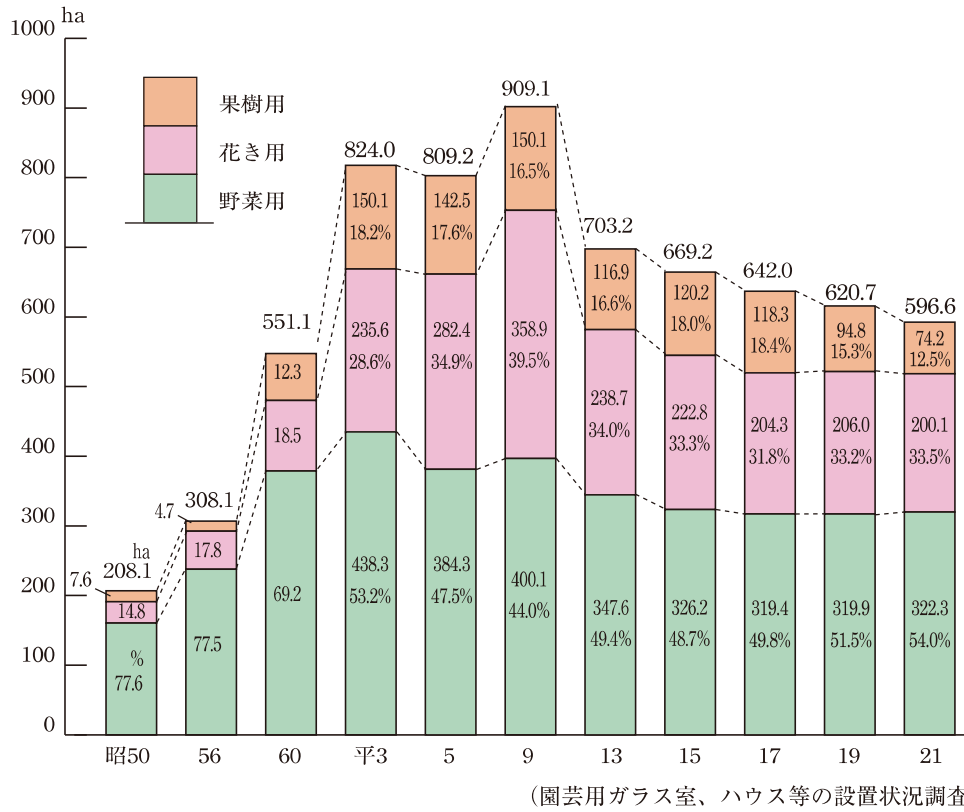


〔平25〕	耕地面積						
	全国	和歌山県	順位	シェア(%)	1位 県名	2位 県名	3位 県名
耕地面積合計(ha)	4,537,000	34,600	38	0.8	北海道	茨城	新潟
田	2,465,000	10,300	42	0.4	北海道	新潟	秋田
畑	2,072,000	24,300	20	1.2	北海道	鹿児島	茨城

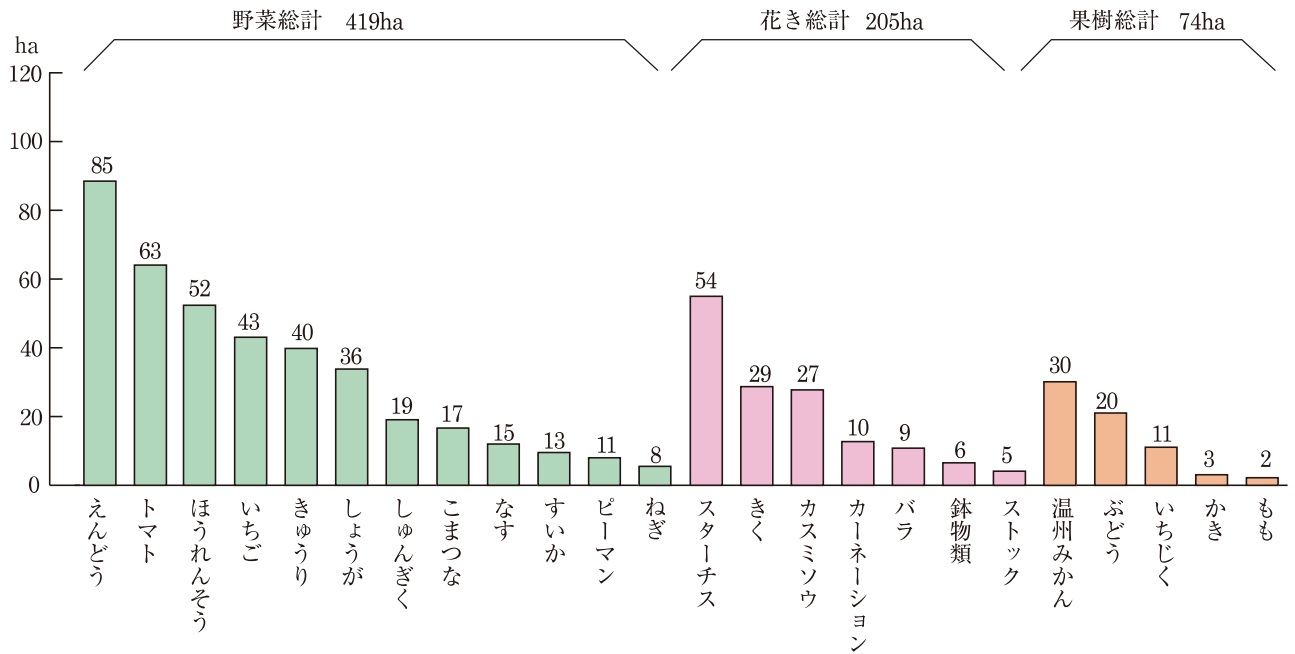
耕地の拡張・かい廃の推移



施設設置面積の推移



主要品目別施設栽培延面積 (平21)



施設園芸作付延面積の推移

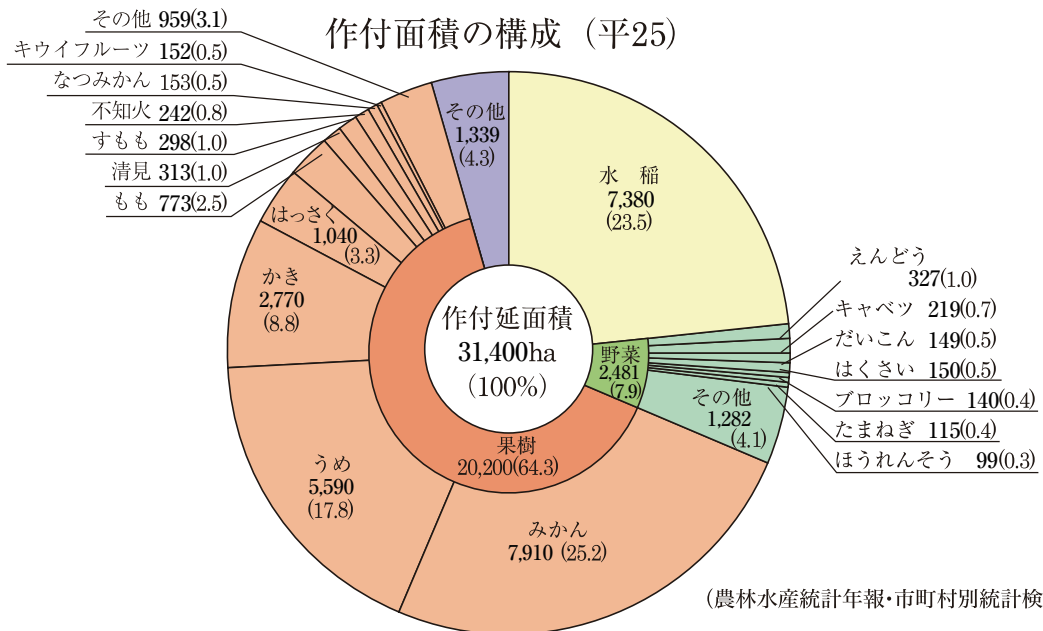
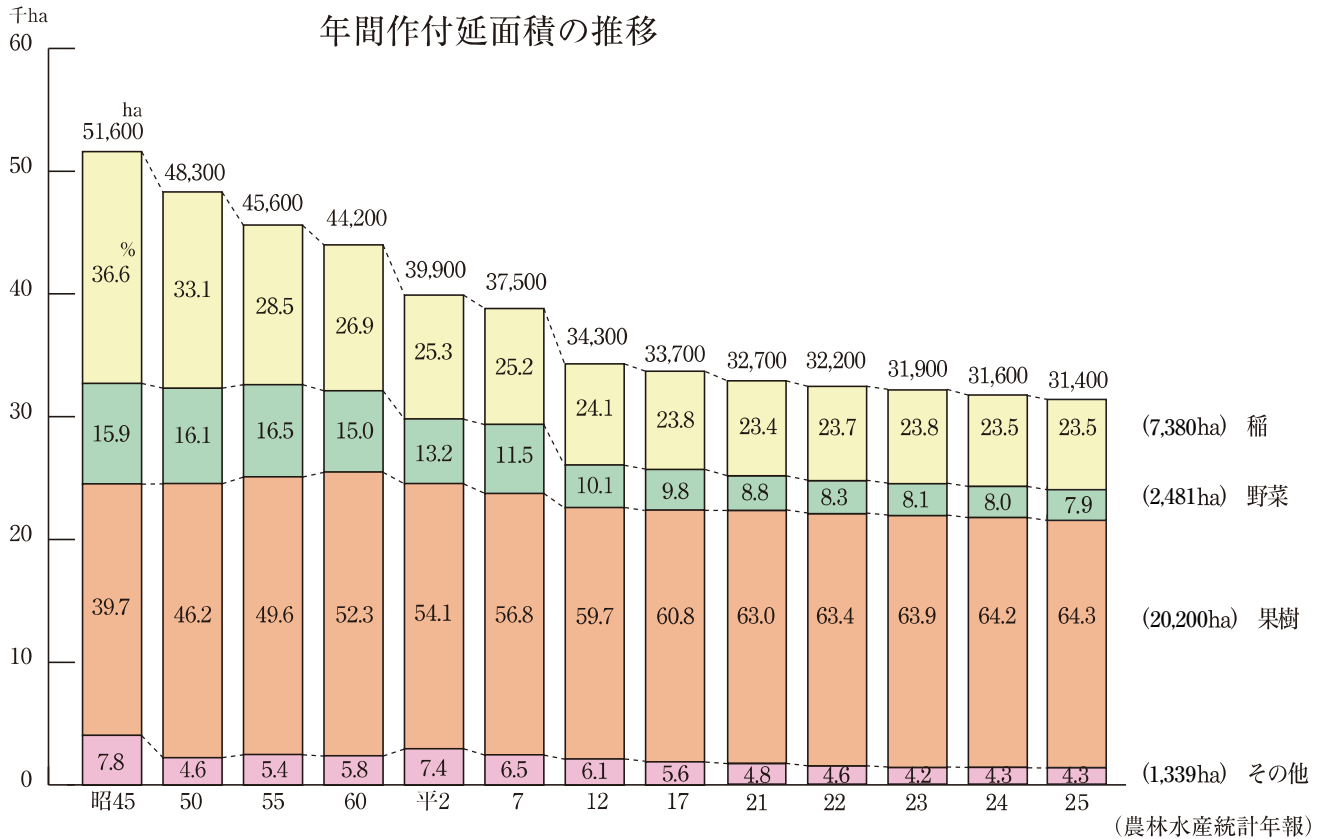
	昭50	55	60	平2	5	9	13	15	17	19	21
野菜	197	358	663	580	459	474	432	380	382	377	419
花き	35	79	180	276	353	413	266	210	220	211	205
果樹	16	15	80	137	174	150	117	120	118	92	74
合計	248	452	923	993	986	1,037	815	710	720	680	698

(園芸用ガラス室、ハウス等の設置状況調査)

4) 農業生産

年間作付け面積の構成 —— 果樹 (64.3%)・水稲 (23.5%)・野菜 (7.9%)

水稲、野菜の作付け面積の減少に比べ果樹の作付け面積の減少率は低く、年々果樹のウエイトが高くなっている。



作付延面積

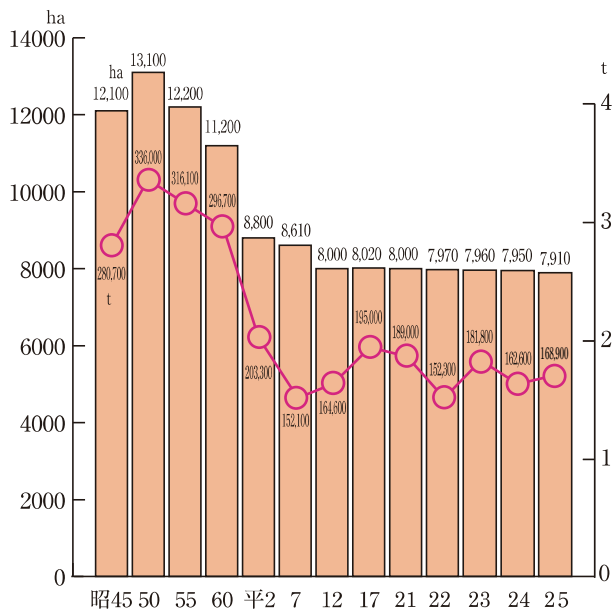
〔平25〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
作付延面積 (ha)	4,167,000	31,400	36	0.8	北海道	茨城	新潟
稲	1,599,000	7,380	42	0.5	新潟	北海道	秋田
野菜	571,700	2,481	46	0.5	北海道	千葉	茨城
果樹	237,000	20,200	2	8.5	青森	和歌山	愛媛

かんきつ類の栽培面積及び収穫量の推移

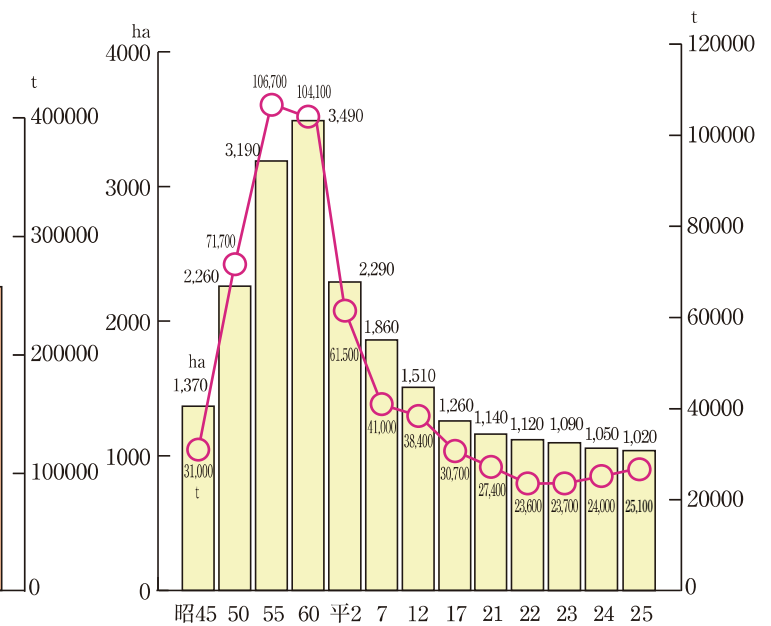
- みかん：みかんの生産過剰とオレンジ輸入自由化により、昭和50年から平成2年にかけて栽培面積は急激に減少するが、平成2年から緩やかな減少傾向となる。
- はっさく：みかんの転換作物として昭和60年まで栽培面積は増大するが、収益性の低下により減少する。近年減少傾向が鈍化している。
- 不知火：みかん・なつみかん・いよかん等の転換作物として栽培面積は増加傾向にある。

平成25年の全国順位とシェア（栽培面積）—— みかん1位（17.1%）

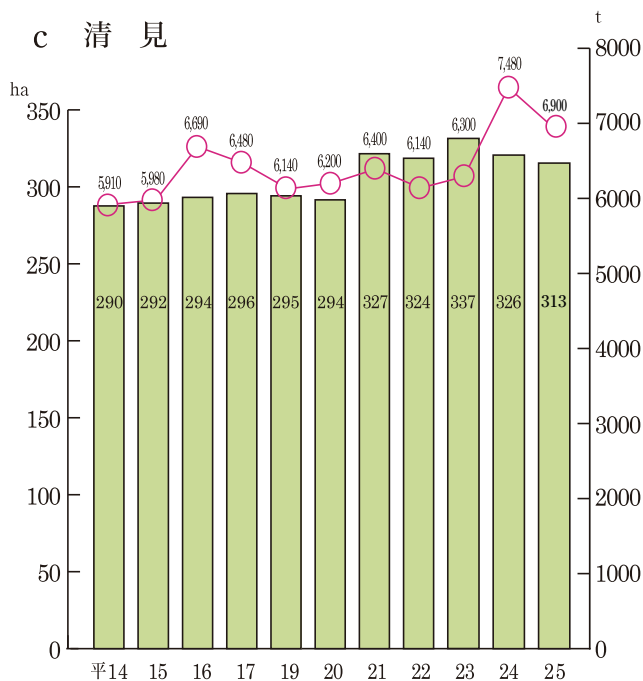
a みかん



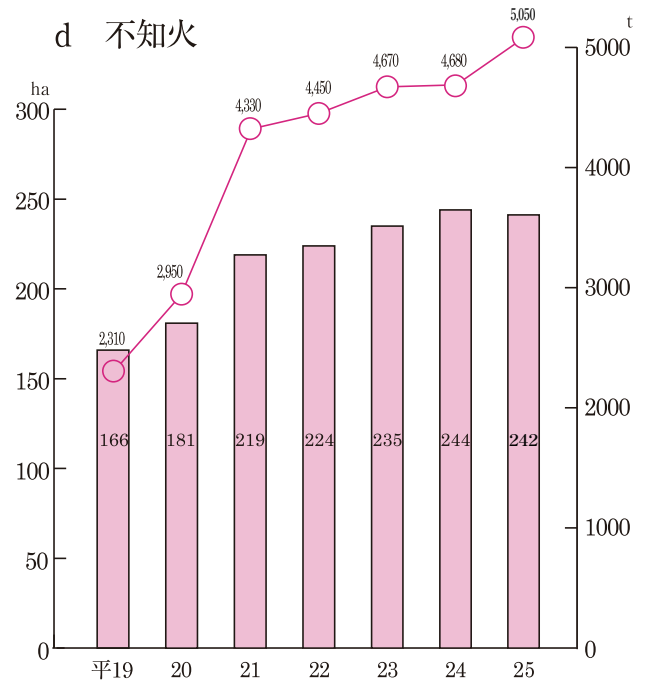
b はっさく



c 清見



d 不知火

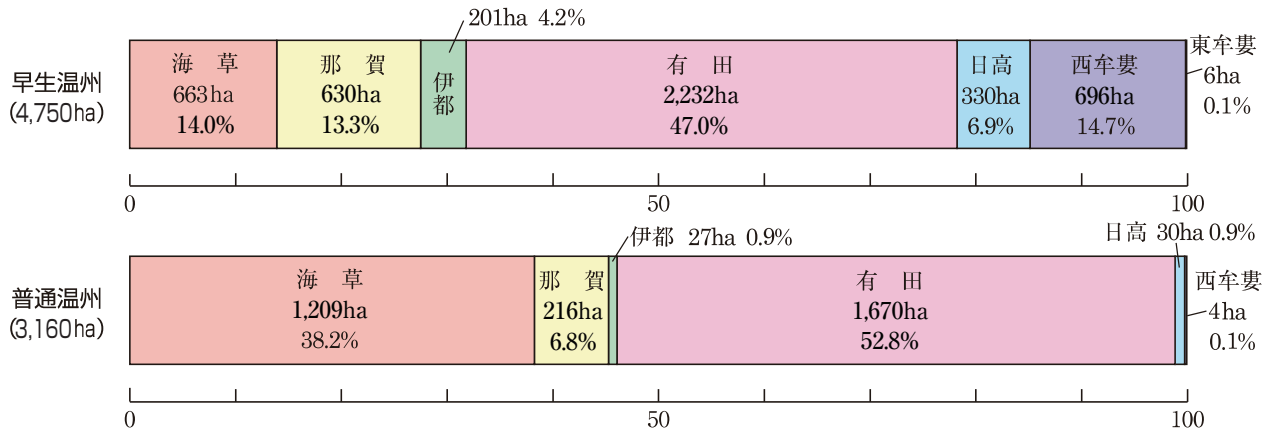


□ 栽培面積 (ha)

○ 収穫量 (t)

(農林水産統計年報・市町村別統計検討協議会調べ)

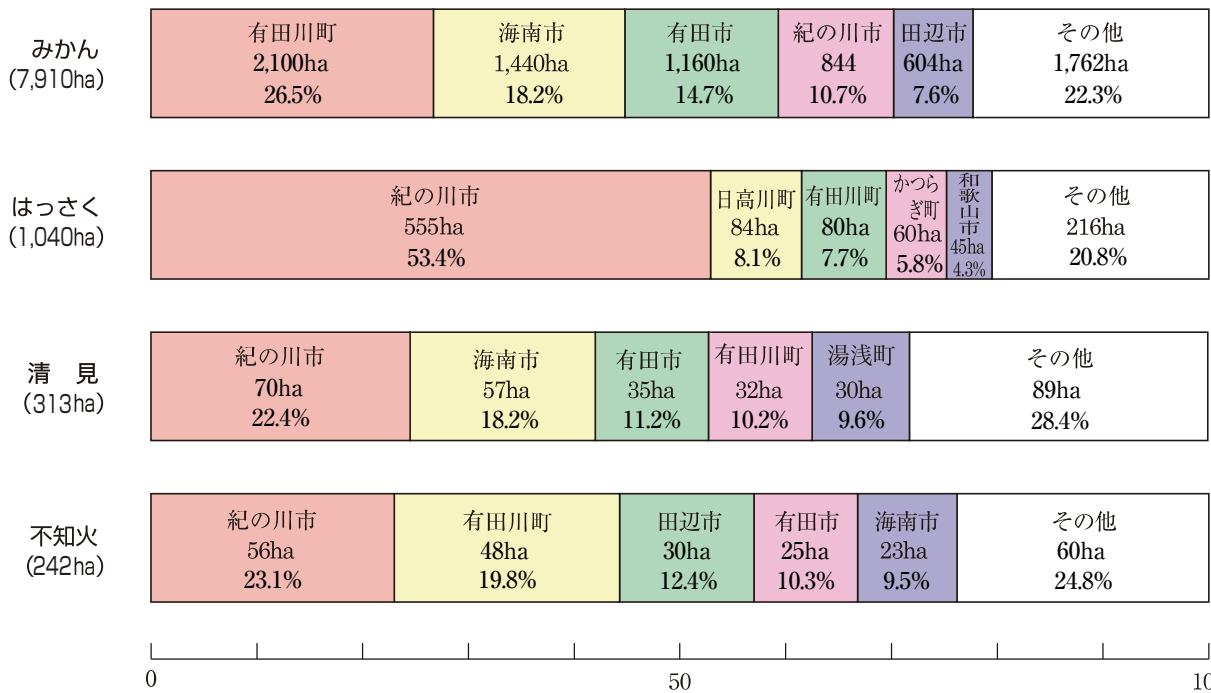
地域別・みかんの栽培面積（平25）



(市町村別統計検討協議会調べ)

市町村別・かんきつ類の栽培面積

〔上位5市町村〕（平25）



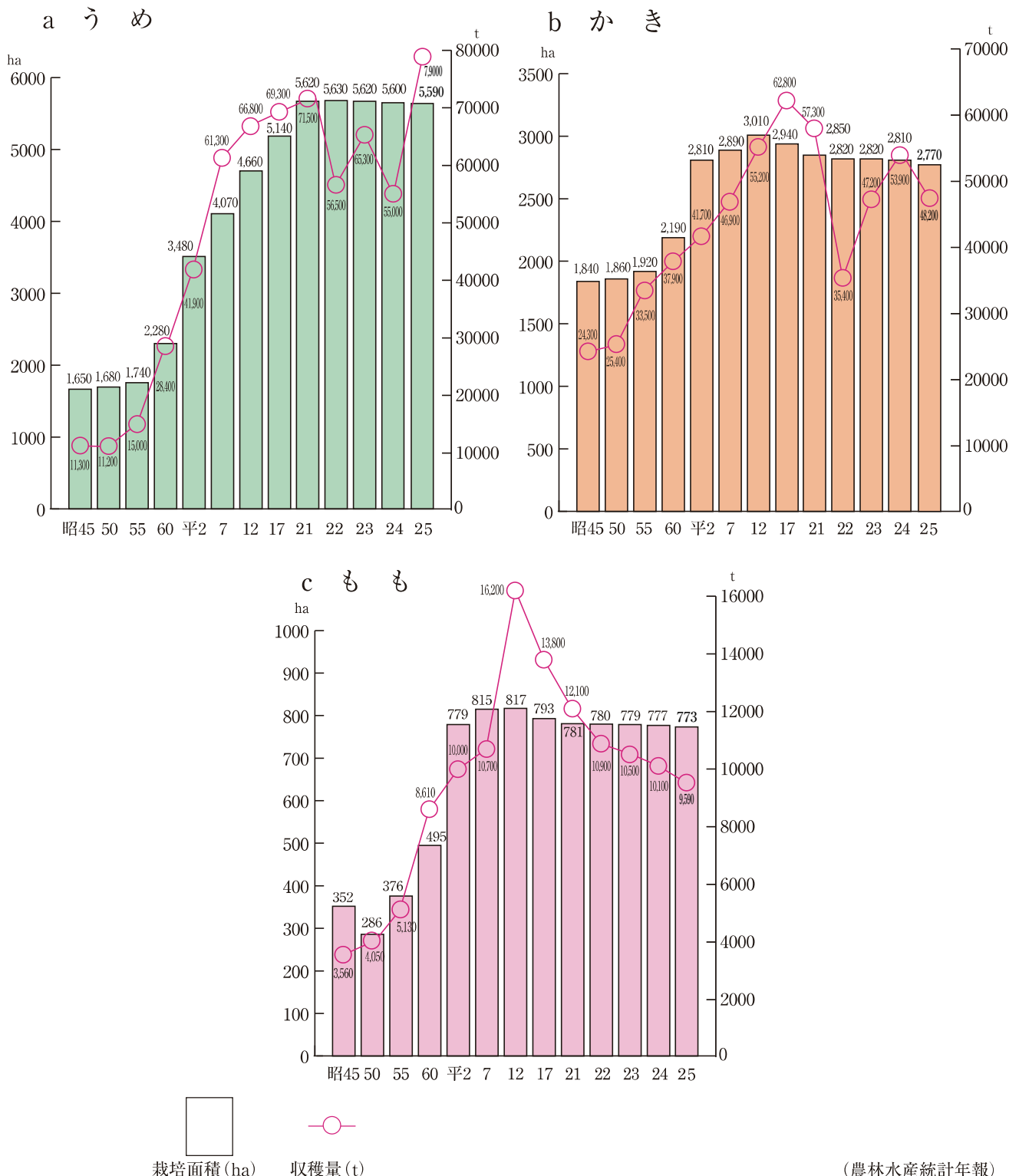
(市町村別統計検討協議会調べ)

みかんの栽培面積						
〔平25〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名
みかん	46,300	7,910	1	17.1	和歌山	愛媛 静岡

落葉果樹の栽培面積及び収穫量の推移

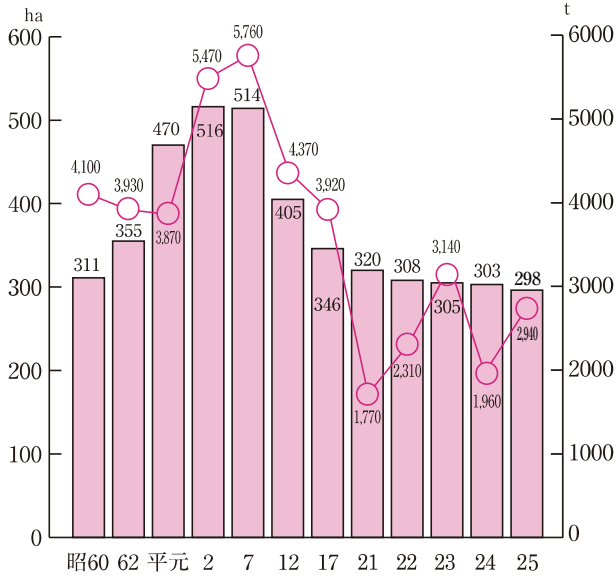
落葉果樹全体では、昭和55年以降みかんからの転作により栽培面積は増加傾向であったが、現在は横ばいである。

- うめ 昭和55年から平成7年にかけて健康食ブームと相まって栽培面積が急増したが、近年は横ばいとなっている。
 - かき・もも 昭和55年から平成2年にかけて栽培面積が急増し、それ以降は横ばいとなっている。
 - すもも・キウイフルーツ 平成2年をピークに栽培面積は減少しているが、近年はやや純化傾向である。
- 平成25年の全国順位とシェア（栽培面積）—— うめ 1位（32.5%）・かき 1位（12.4%）
 もも 4位（7.2%）・すもも 3位（9.6%）
 キウイフルーツ 3位（6.7%）

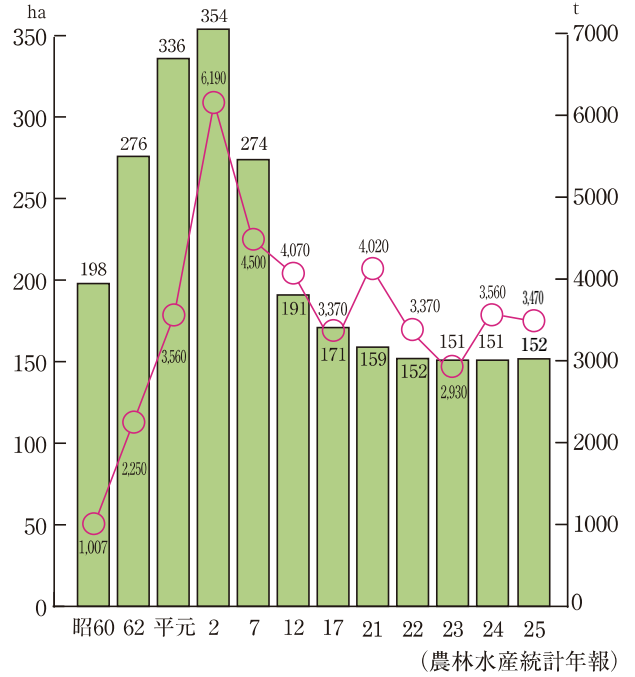


(農林水産統計年報)

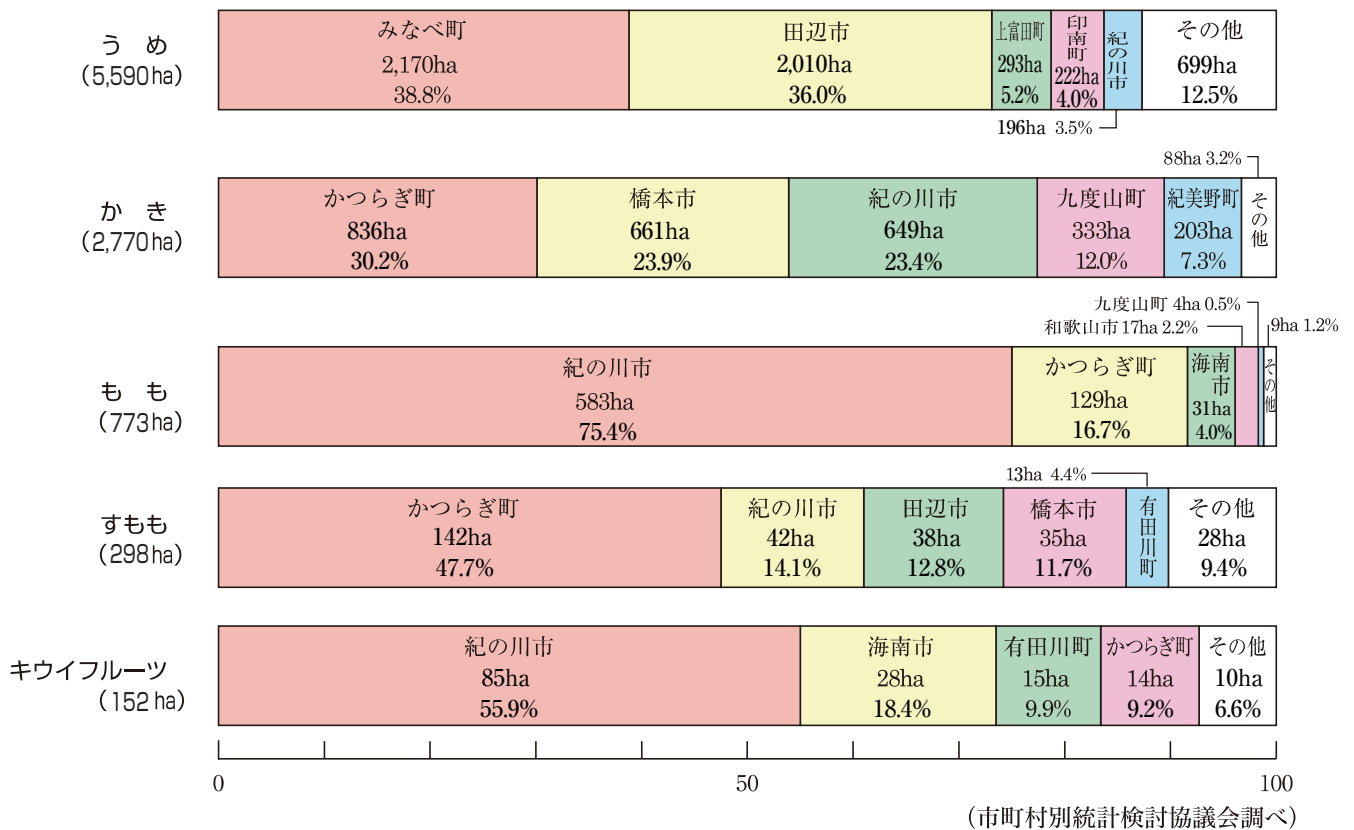
d すもも



e キウイフルーツ



市町村別・落葉果樹の栽培面積 (平25)

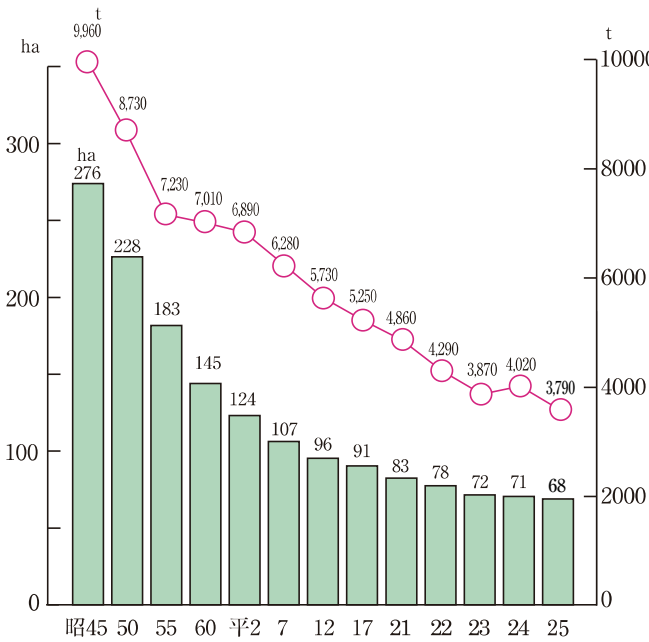


〔平25〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名
うめ	17,200	5,590	1	32.5	和歌山	群馬
かき	22,300	2,770	1	12.4	和歌山	福岡
もも	10,700	773	4	7.2	山梨	福島
すもも	3,110	298	3	9.6	山梨	長野
キウイフルーツ	2,280	152	3	6.7	愛媛	福岡

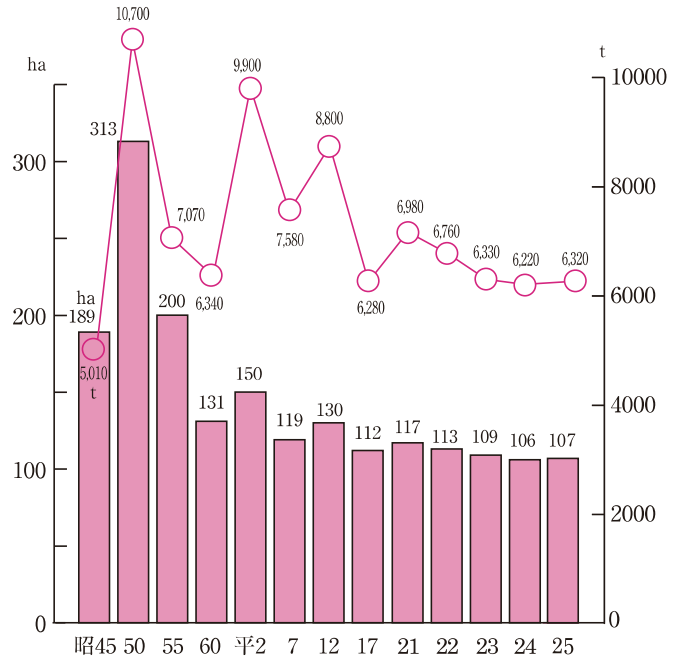
果菜類の作付面積及び収穫量の推移

栽培面積は減少傾向であるが、近年は横ばいで推移している。

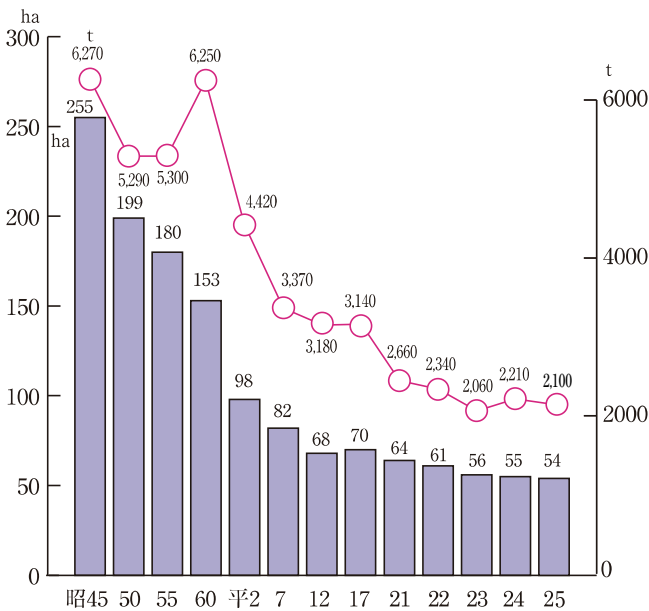
a きゅうり



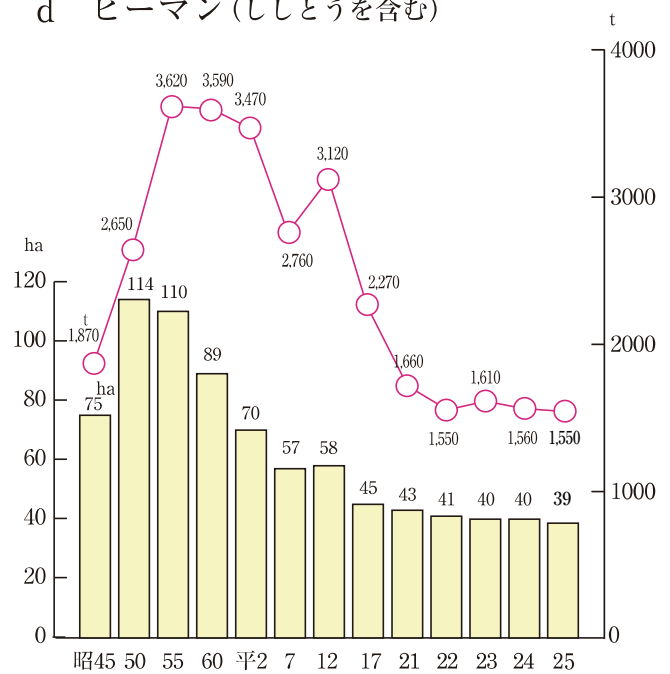
b トマト (ミニトマトを含む)



c なす



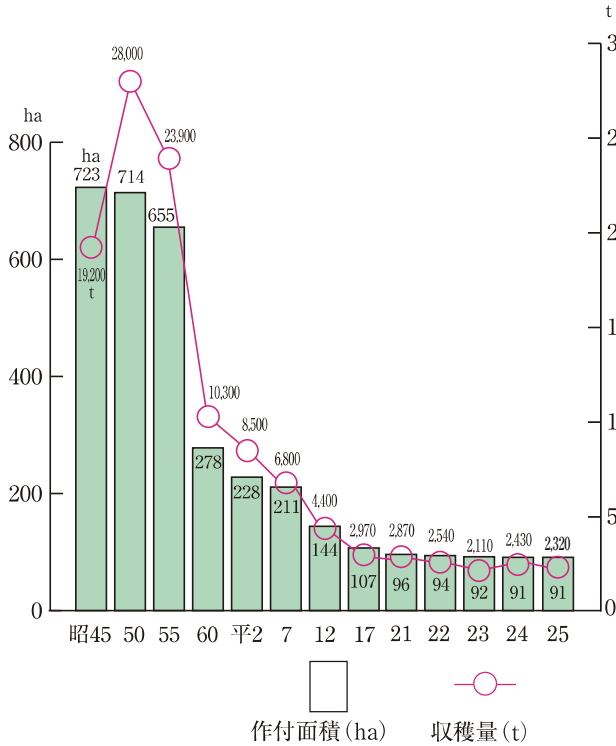
d ピーマン (ししとうを含む)



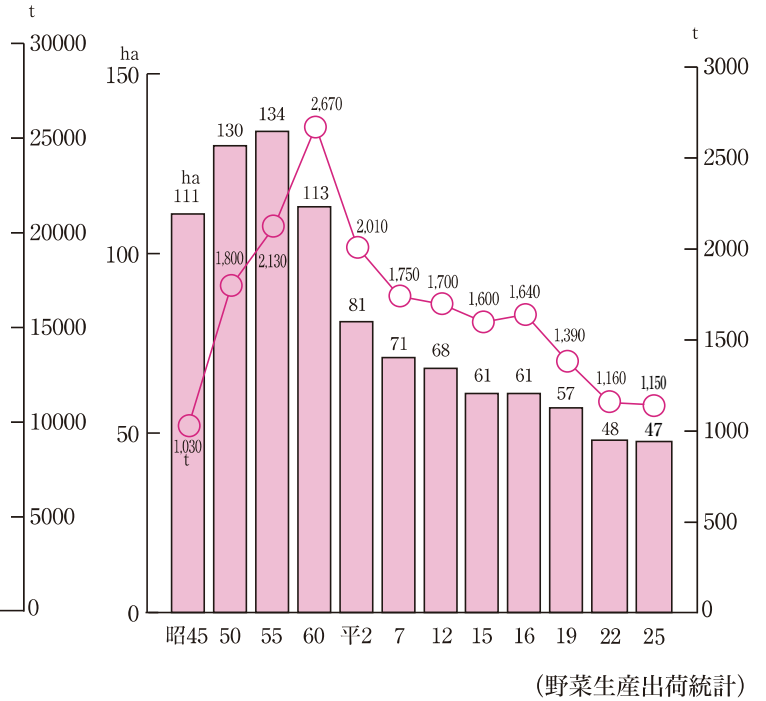
□ 作付面積 (ha) ○ 収穫量 (t)

(野菜生産出荷統計)

e すいか



f いちご



(野菜生産出荷統計)

市町村別・果菜類の作付面積 (平25)

きゅうり (68 ha)	紀の川市 17ha 25.0%	美浜町 13ha 19.1%	印南町 6ha 9.0%	日高町 6ha 9.0%	かつらぎ町 5ha 7.4%	御坊市 5ha 7.4%	その他 16ha 23.1%
トマト (107ha)	印南町 21ha 19.6%	紀の川市 17ha 15.9%	和歌山市 11ha 10.3%	日高町 10ha 9.3%	有田川町 8ha 7.5%	御坊市 6ha 5.6%	その他 34ha 31.8%
なす (54ha)	紀の川市 13ha 24.1%	日高川町 5ha 9.3%	御坊市 5ha 9.3%	橋本市 5ha 9.3%	岩出市 4ha 7.4%	有田川町 3ha 5.6%	その他 19ha 35%
ピーマン (39ha)	和歌山市 9ha 23.1%	有田川町 8ha 20.5%	御坊市 6ha 15.4%	日高川町 2ha 5.1%	その他 14ha 35.9%		
すいか (91 ha)	印南町 43ha 47.3%		御坊市 17ha 18.7%	紀の川市 11ha 12.1%	和歌山市 3ha 3.3%	その他 17ha 18.6%	
いちご (48ha)	紀の川市 28ha 58.3%			湯浅町 3ha 6.3%	御坊市 2ha 4.2%	みなべ町 2ha 4.2%	その他 13ha 27.1%

※ピーマンはししとう含む
※いちごの数値は平成22年

(市町村別統計検討協議会調べ・県果樹園芸課業務資料)

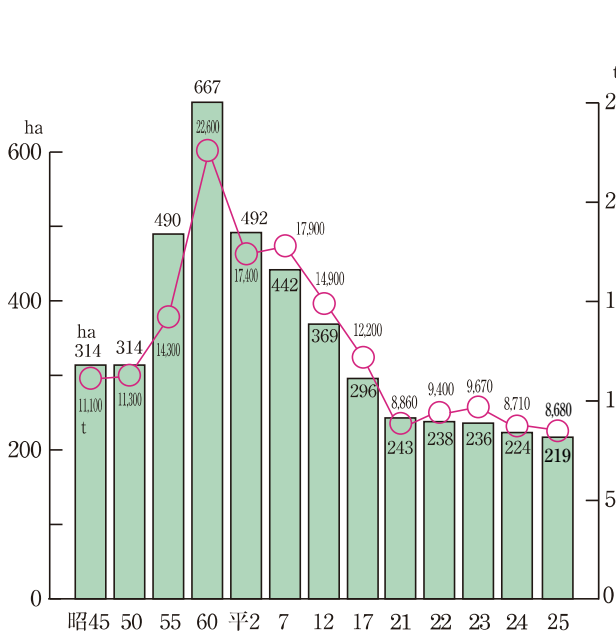
作付面積 (果菜類)							
〔平25〕	(ha)						
	全国 実数	和歌山 実数	和歌山 順位	シェア(%)	1位 県名	2位 県名	3位 県名
きゅうり	11,400	68	42	0.6	福島	宮崎	埼玉
トマト	12,100	107	35	0.9	熊本	茨城	千葉
なす	9,700	54	44	0.6	新潟	山形	茨城
ピーマン	3,360	39	25	1.2	茨城	宮崎	岩手
すいか	11,000	91	20	0.8	熊本	千葉	山形
いちご	5,600	47	32	0.8	栃木	福岡	熊本

※県順位は、公表されている統計数値から作成した。

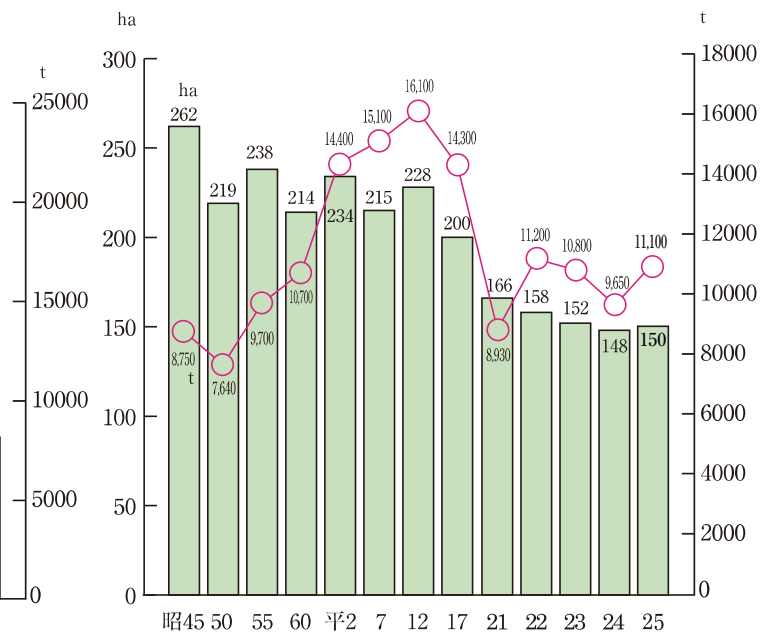
葉茎菜類の作付面積及び収穫量の推移

- 近年、栽培面積、収穫量ともに減少傾向である。
- 21年産は集中豪雨の影響により11月～12月出荷の品目で収穫量が大幅に減少した。

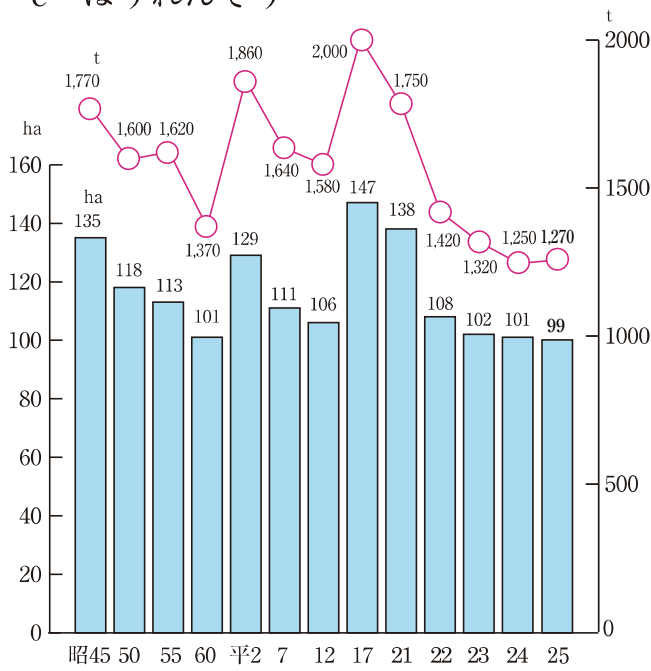
a キャベツ



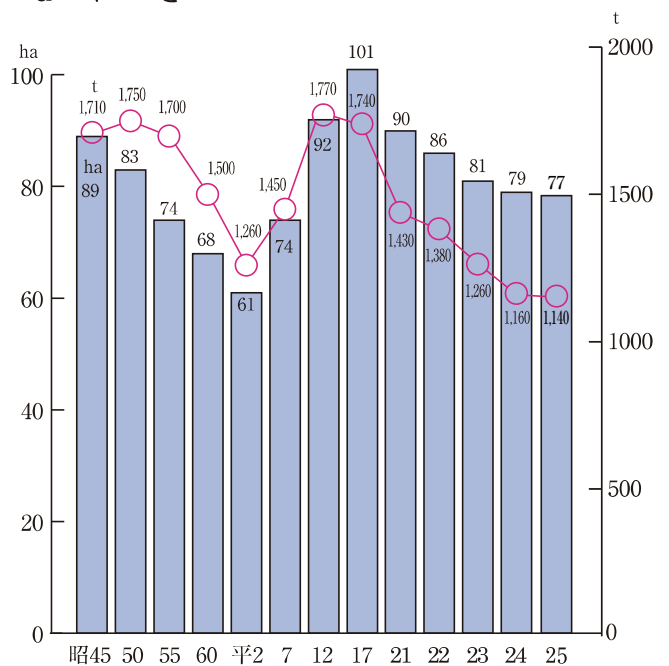
b はくさい



c ほうれんそう



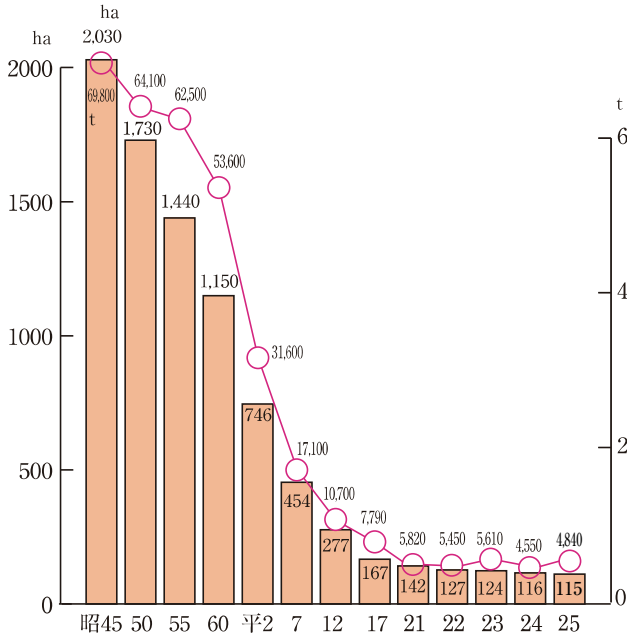
d ねぎ



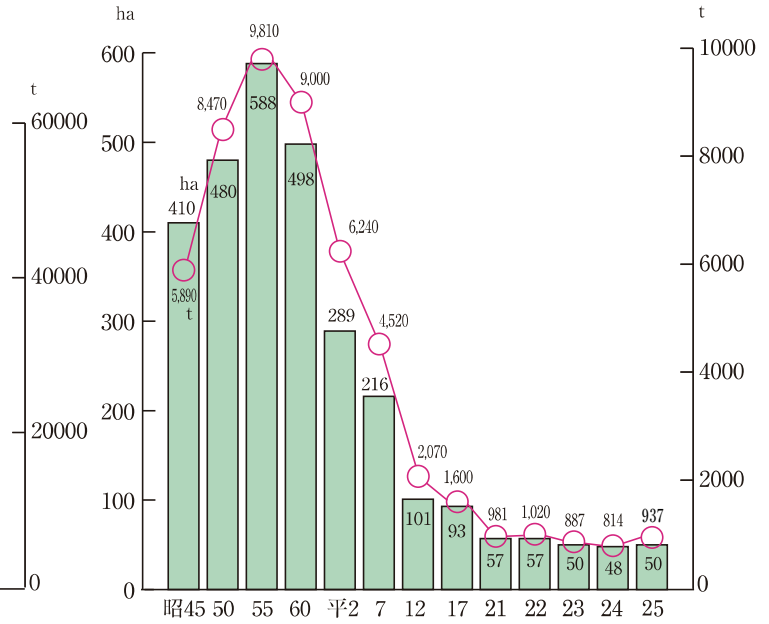
□ 作付面積 (ha) ○ 収穫量 (t)

(野菜生産出荷統計)

e たまねぎ



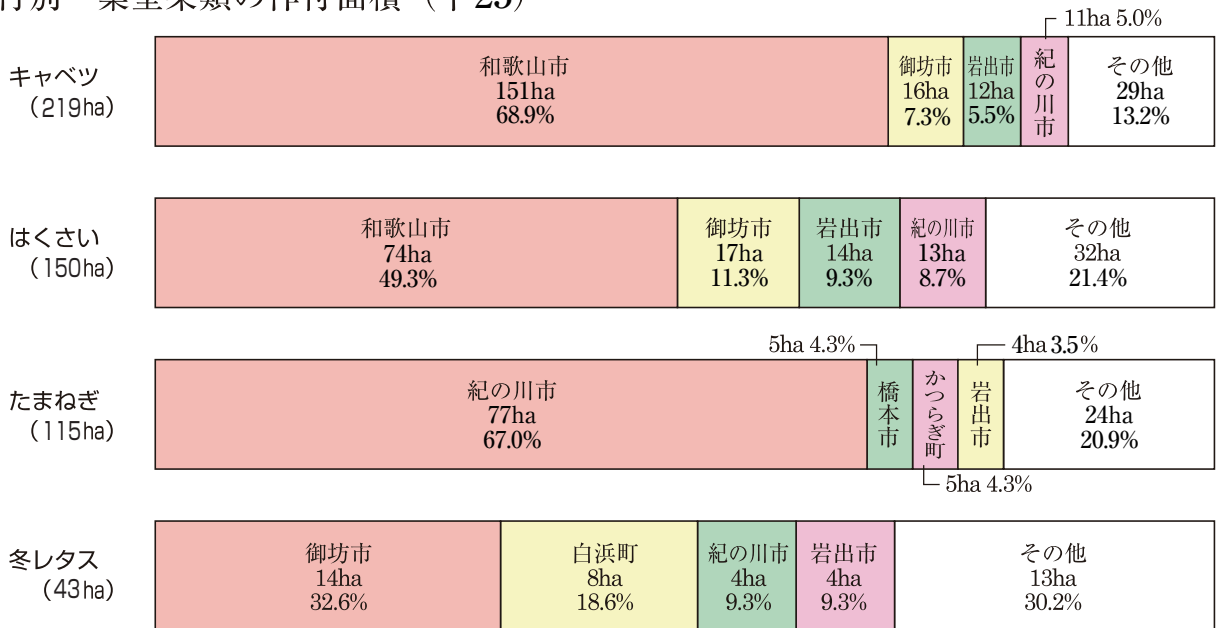
f レタス



(野菜生産出荷統計)

□ 作付面積 (ha) ○ 収穫量 (t)

市町村別・葉茎菜類の作付面積 (平25)



0 50 100

(市町村別統計検討協議会調べ)

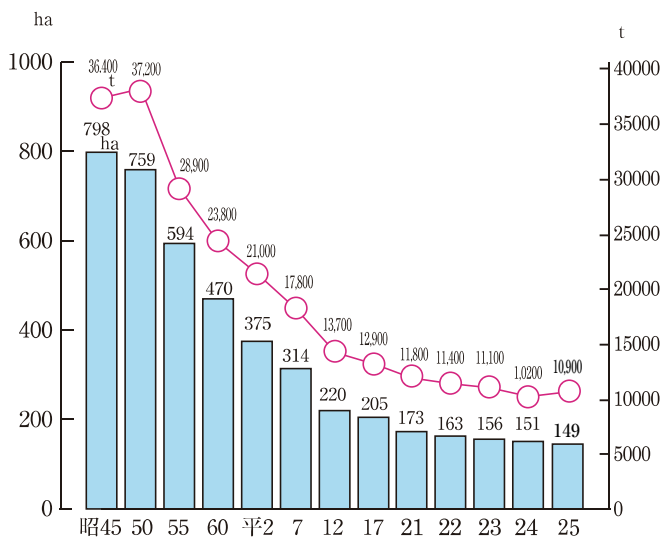
作付面積 (葉茎菜類) (ha)							
[平25]	全国	和歌山県			1位	2位	3位
	実数	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
キャベツ	34,300	219	35	0.6	愛知	群馬	千葉
はくさい	17,800	150	30	0.8	茨城	長野	北海道
ほうれんそう	21,300	99	40	0.5	千葉	埼玉	岐阜
ねぎ	22,900	77	45	0.3	千葉	埼玉	茨城
たまねぎ	25,200	115	28	0.5	北海道	佐賀	兵庫
レタス	21,300	50	30	0.2	長野	茨城	兵庫

※県順位は、公表されている統計数値から作成した。

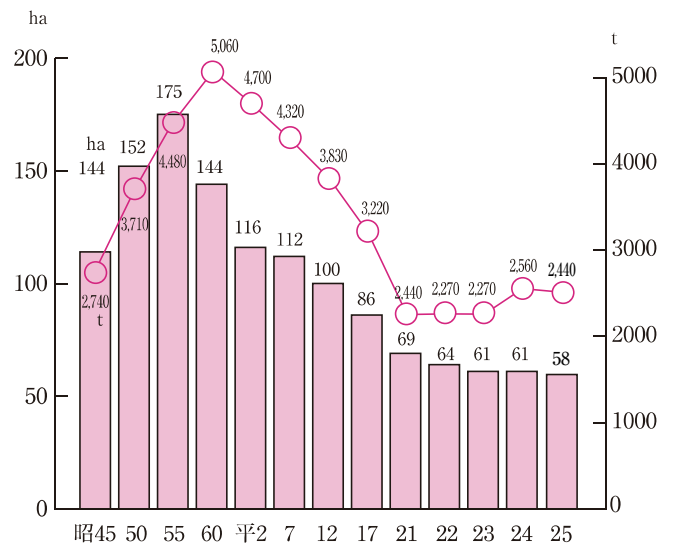
根菜類及び豆類の作付面積と収穫量の推移

- だいこん・にんじん・さといも・えんどう：栽培面積の減少が続いていたが、その傾向は近年やや鈍化している。

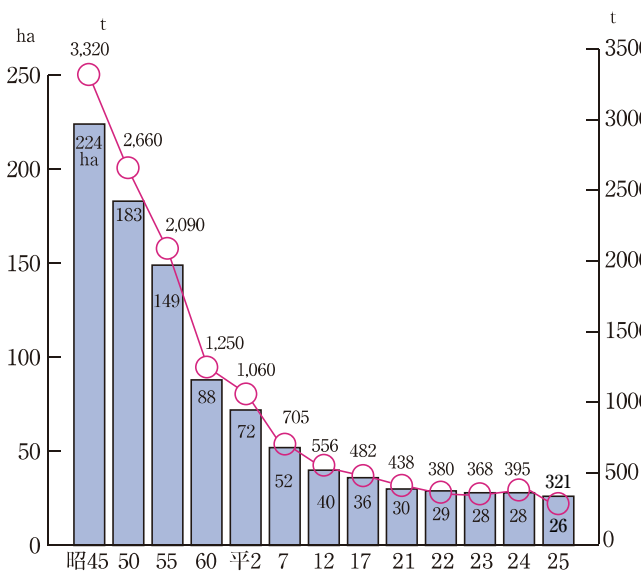
a だいこん



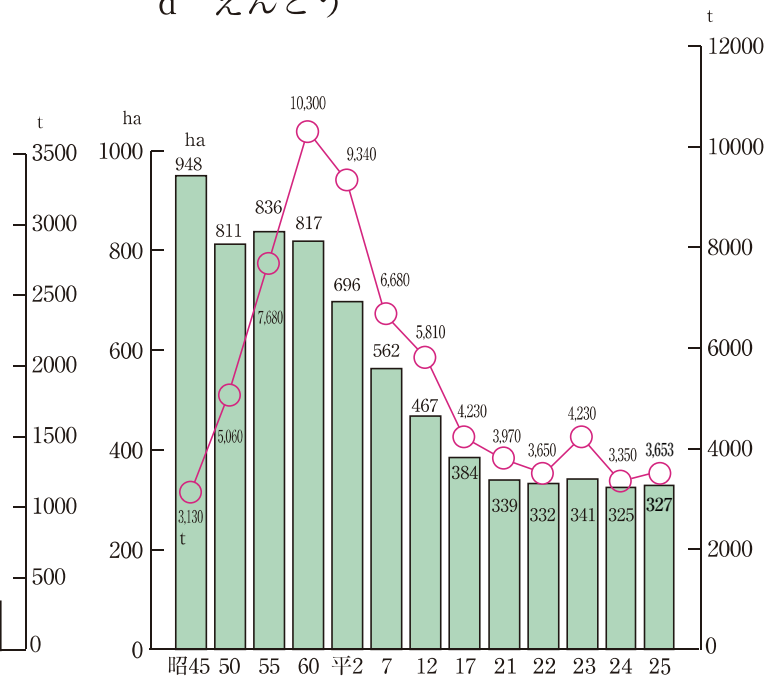
b にんじん



c さといも



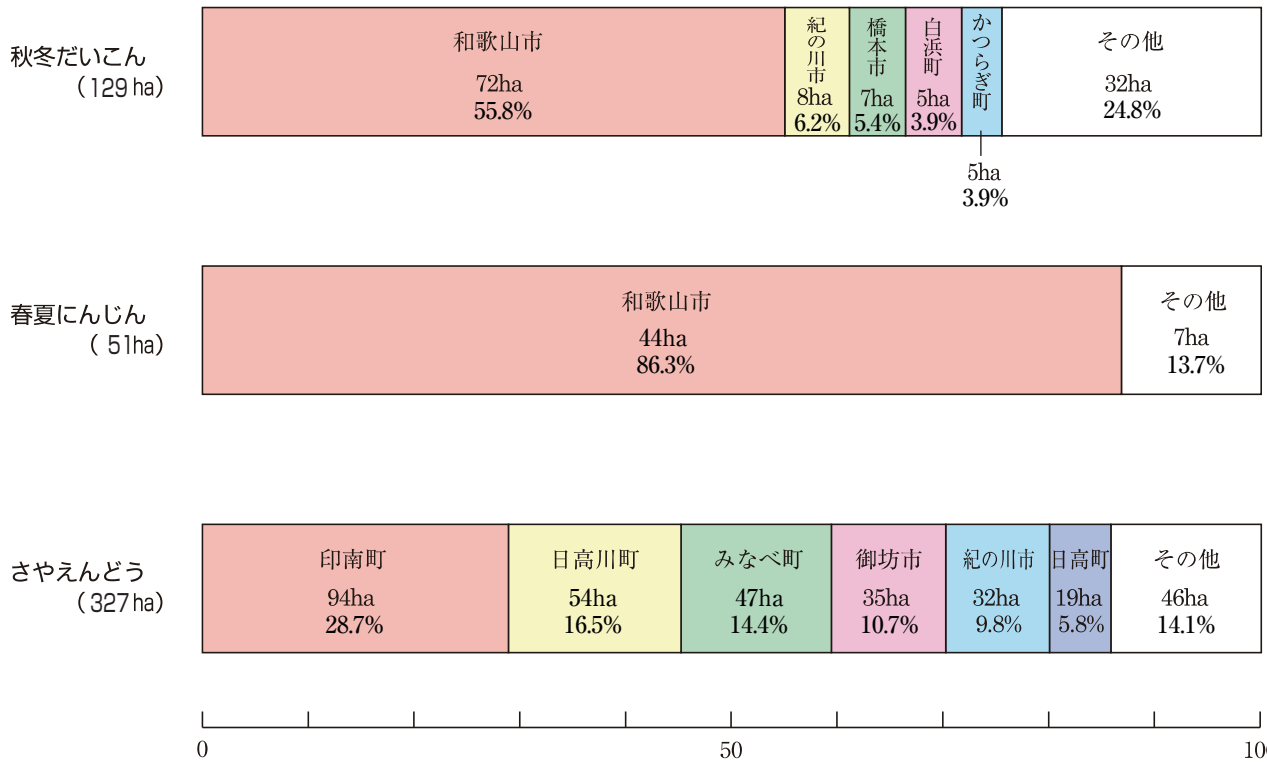
d えんどう



□ 作付面積 (ha) ○ 収穫量 (t)

(野菜生産出荷統計)

市町村別・根菜類及び豆類の作付面積（平25）



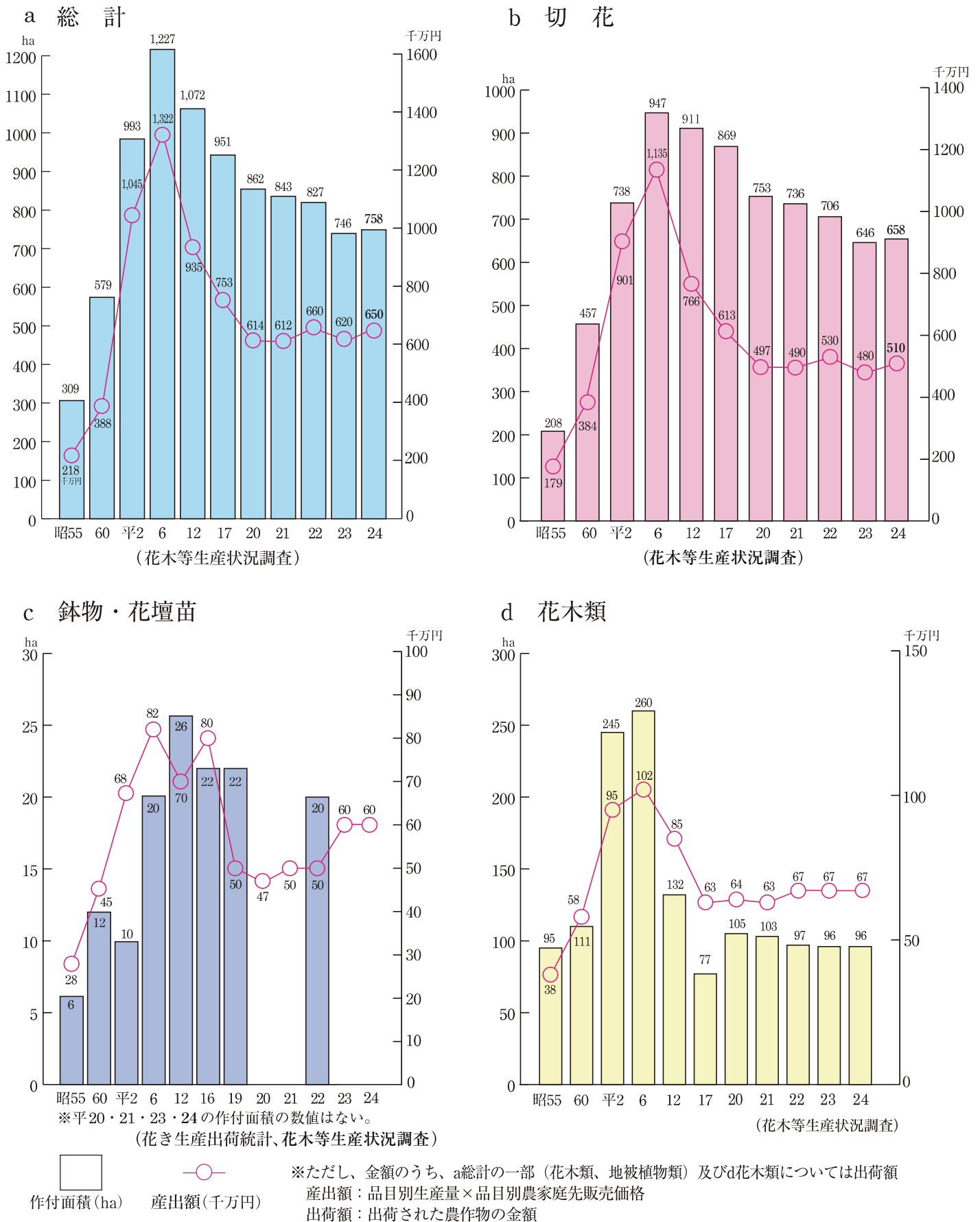
(市町村別統計検討協議会調べ)

作付面積（根菜類・豆類）							
〔平25〕	和歌山県				1位	2位	3位
	全国 実数	和歌山 実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
だいこん	33,700	149	42	0.4	北海道	青森	千葉
にんじん	18,500	58	34	0.3	北海道	千葉	青森
さといも	13,000	26	43	0.2	千葉	宮崎	埼玉
えんどう	3,938	327	2	8.3	鹿児島	和歌山	福島

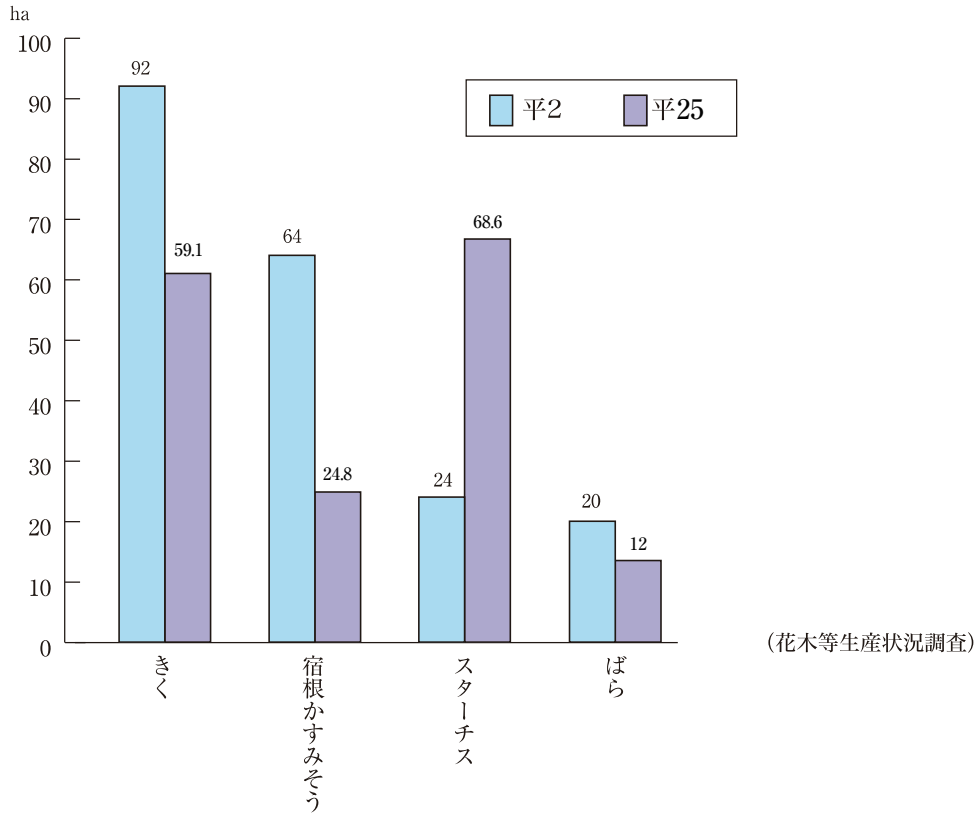
※県順位は、公表されている統計数値から作成した。(野菜生産出荷統計)
 ※えんどうはさやえんどう、グリーンピースの合計

花き生産の推移

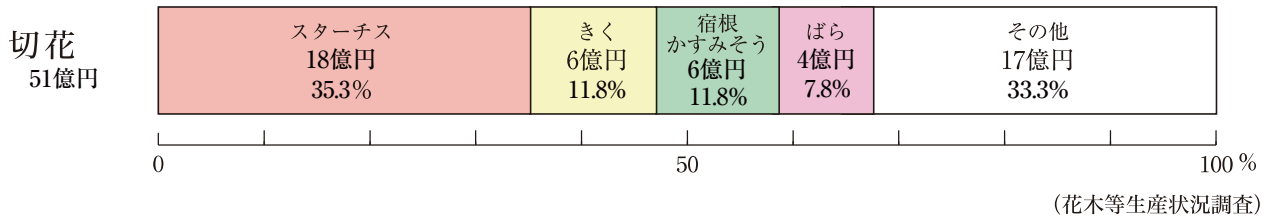
花き全体の栽培面積は平成6年から平成24年にかけて需要の増加や野菜からの転換により急激に増加したが、平成6年をピークに減少している。



主要切花の作付面積



切花生産額の品目別割合 (平24)



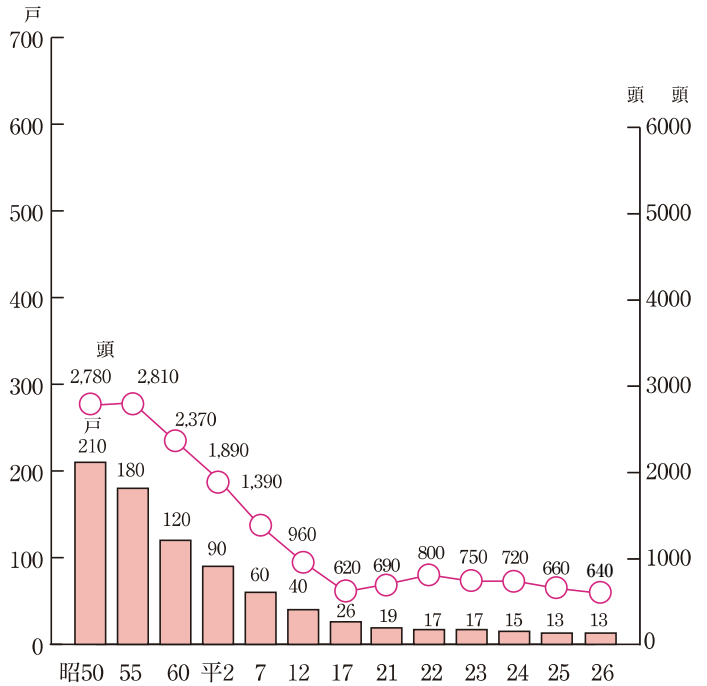
〔平24〕	産出額 (花き) (億円)						
	全国 実数	和歌山 実数	和歌山 順位	和歌山 シェア(%)	1位 県名	2位 県名	3位 県名
スターチス	44	18	1	40.9	和歌山	北海道	長野
宿根かすみそう	34	6	2	17.6	熊本	和歌山	福島

(花木等生産状況調査)

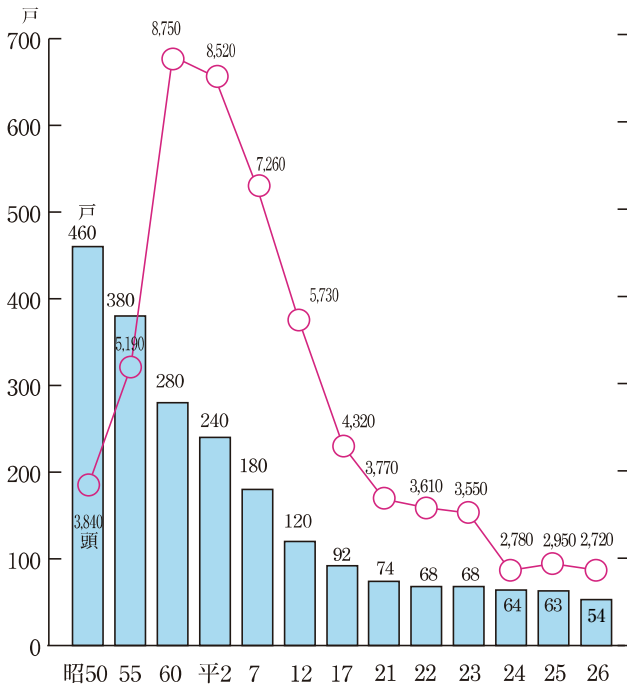
家畜の飼養戸数及び飼養頭羽数の推移

畜産農家数及び飼養頭羽数は減少傾向であるが近年は横ばいで推移している。
 (採卵鶏の農家戸数は平成元年より300羽以上のみ、平成9年より1,000羽以上のみ、平成14年より種鶏農家除く。)

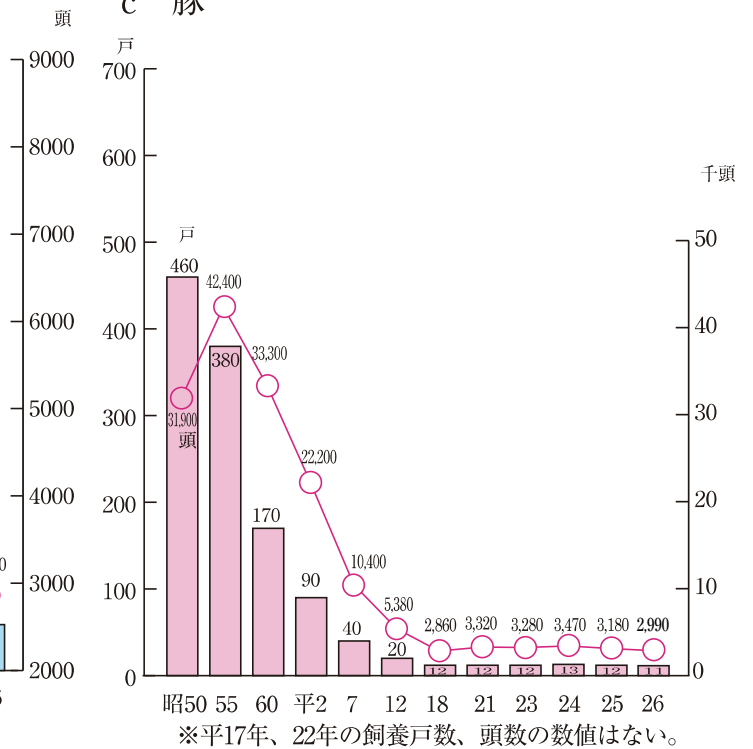
a 乳用牛



b 肉用牛

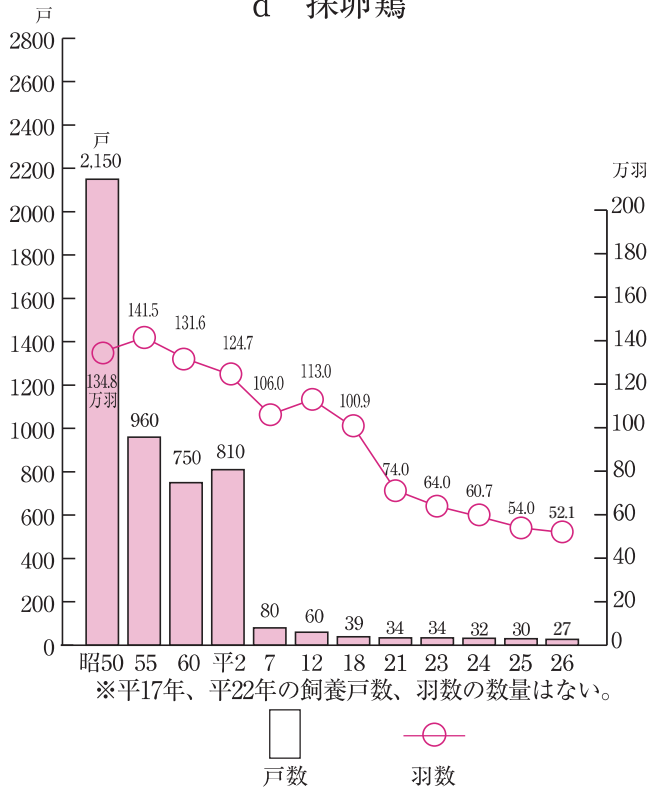


c 豚

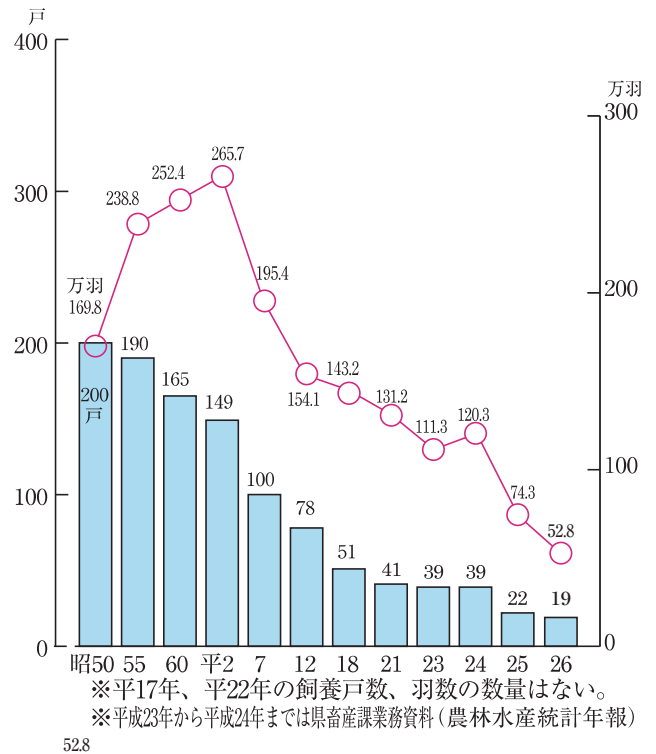


戸数
 頭数
 (農林水産統計年報)

d 採卵鶏



e ブロイラー



市町村別・家畜飼養頭羽数（平25：乳用牛、肉用牛、豚・採卵鶏（成鶏めす））

乳用牛 (640頭)	古座川町 337頭 52.7%	紀の川市 75頭 11.7%	海南市 71頭 11.1%	その他 157頭 24.5%
肉用牛 (2,720頭)	日高川町 490頭 18.0%	紀の川市 394頭 14.5%	和歌山市 276頭 10.1%	その他 1,560頭 57.4%
豚 (2,990頭)	かつらぎ町 963頭 32.2%	すさみ町 675頭 22.6%	有田川町 601頭 20.1%	その他 751頭 25.1%
採卵鶏（成鶏めす） (482千羽)	橋本市 225千羽 46.7%	紀の川市 78千羽 16.2%	和歌山市 47千羽 9.8%	その他 132千羽 27.4%
ブロイラー (528千羽)	日高川町 240千羽 45.5%	有田川町 140千羽 26.5%	広川町 66千羽 12.5%	その他 82千羽 15.5%

0 50 100 (県畜産課業務資料)

家畜の飼養頭羽数・戸数

		全国 実数	和歌山 実数	和歌山 順位	和歌山 シェア(%)	1位 県名	2位 県名	3位 県名
飼養頭羽数	乳用牛(頭)	1,395,000	640	47	0.0	北海道	栃木	岩手
	肉用牛(頭)	2,567,000	2,720	45	0.1	北海道	鹿児島	宮崎
	豚(頭)	9,537,000	2,990	47	0.0	鹿児島	宮崎	千葉
	採卵鶏(千羽)	174,806	521	-	0.3	茨城	千葉	鹿児島
	ブロイラー(千羽)	135,747	528	-	0.4	宮崎	鹿児島	岩手
飼養戸数(戸)	乳用牛	18,600	13	47	0.1	北海道	岩手	栃木
	肉用牛	57,500	54	44	0.1	鹿児島	宮崎	岩手
	豚	5,270	11	43	0.2	鹿児島	宮崎	茨城
	採卵鶏	2,640	27	35	1.0	愛知	千葉	茨城・鹿児島
	ブロイラー(千羽)	2,380	19	23	0.8	宮崎	鹿児島	岩手

採卵鶏、ブロイラーの飼養頭羽数の和歌山県の順位は、飼養頭羽数の数値がXとなっている県があるため確定できない。

X:個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

(農林水産統計年報) [平26.2.1現在]

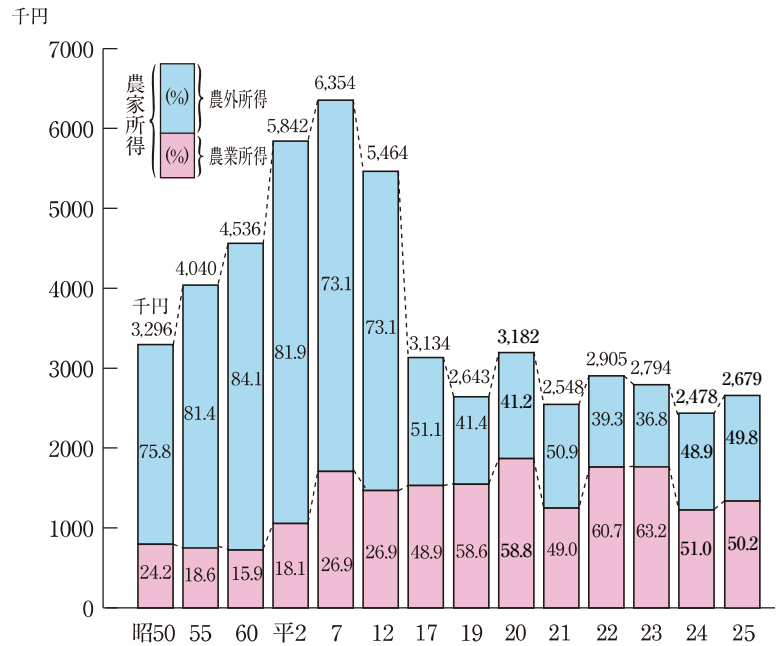
5) 農業所得と農業産出額

農業産出額はピークの平成3年で1,737億円となり、昭和45年に比べ3.0倍となっている。しかし、平成11年以降ピーク時の60～70%程度の産出額で推移している。

また、生産農業所得も同様の傾向で平成25年は300億円となり、農家所得推移も平成8年(6,590千円)をピークに減少傾向にある。

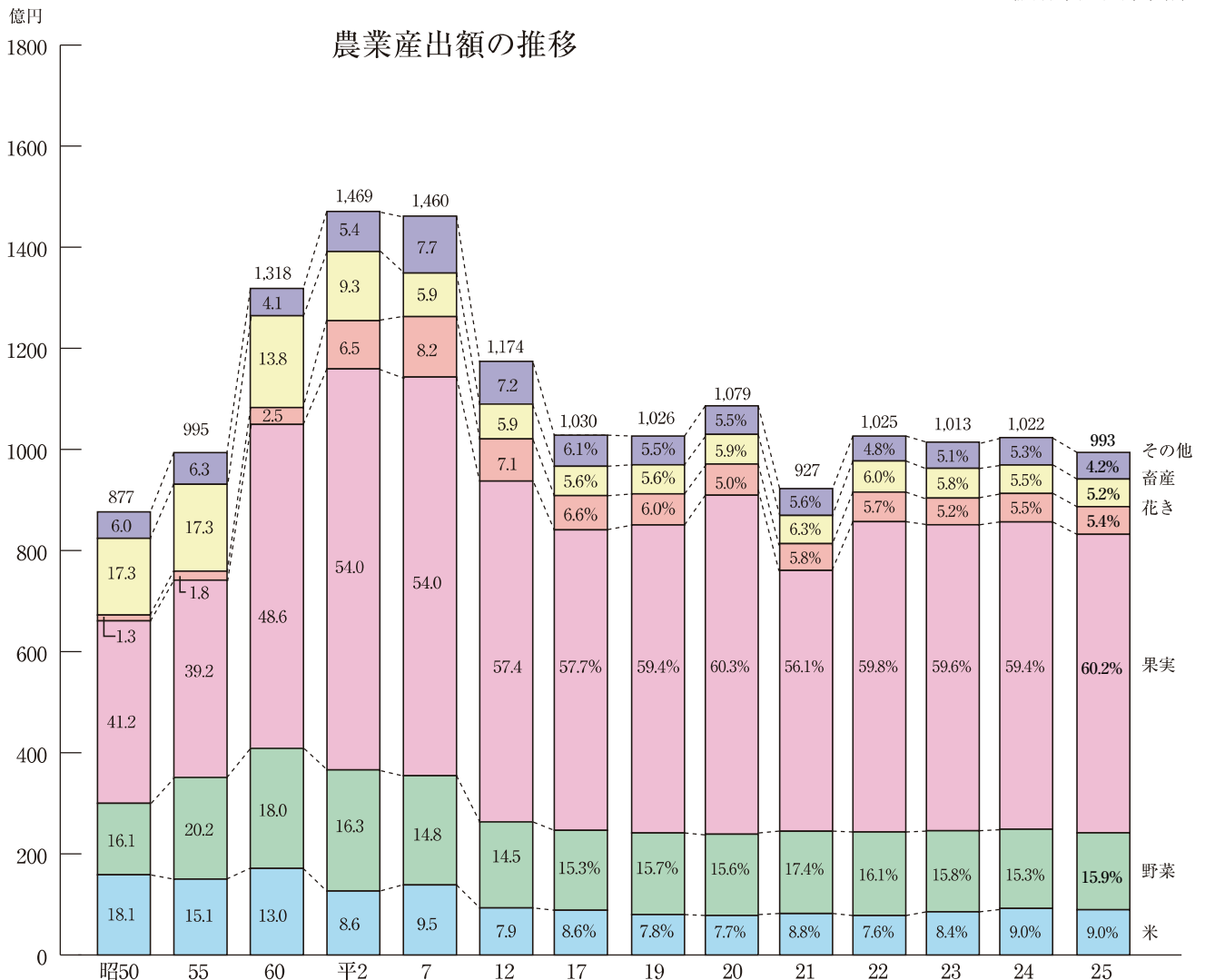
※本調査は、平成16年より調査対象及び調査内容が変更されていますので、ご利用の際はご注意ください。

農家所得の推移



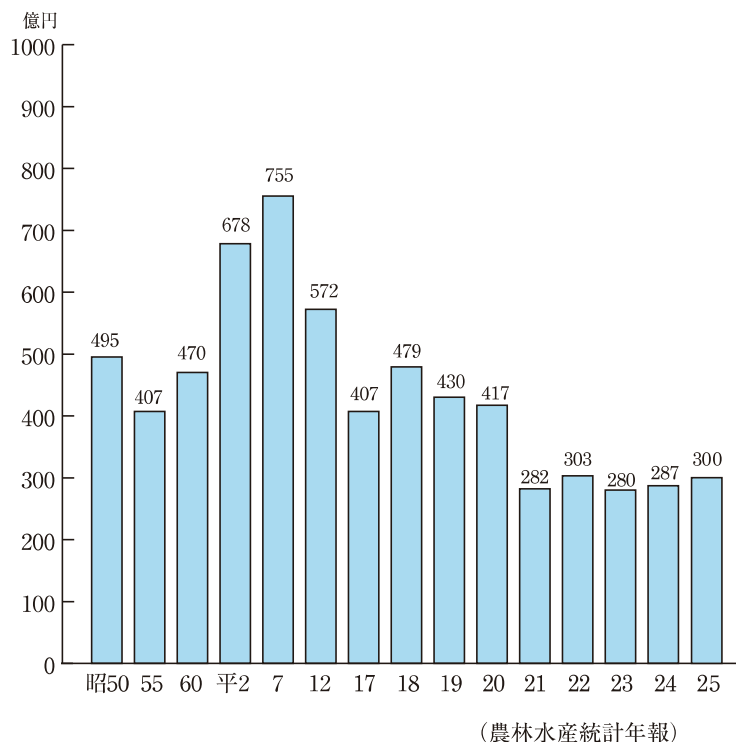
(農林水産統計年報)

農業産出額の推移

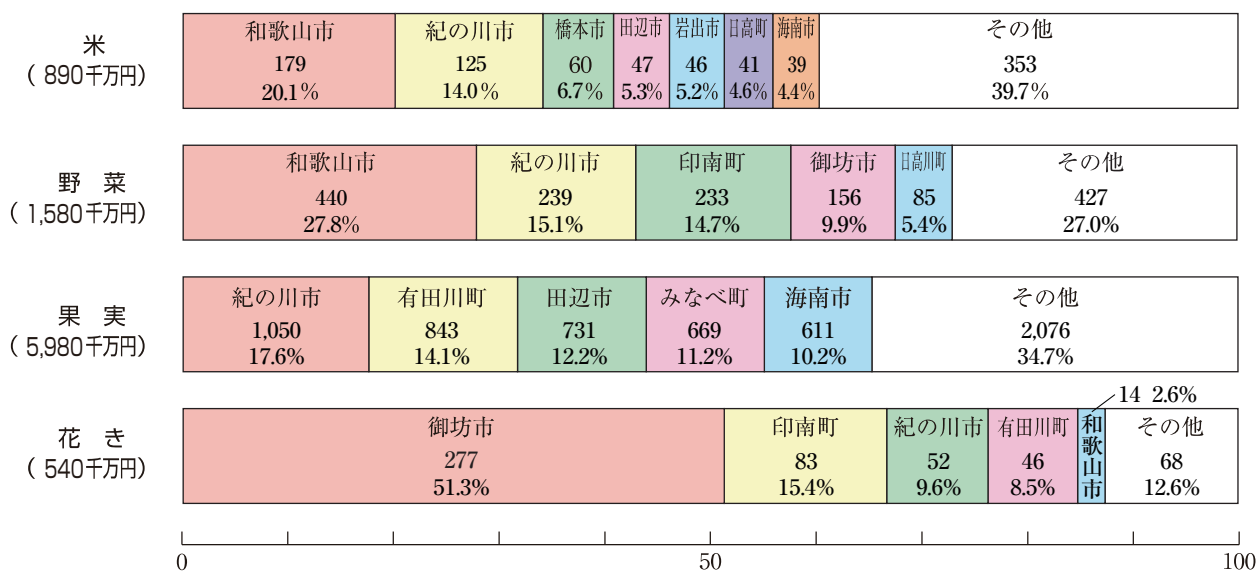


(農林水産統計年報)

生産農業所得（県計）の推移



市町村別・部門別農業産出額（平25）



(市町村別統計検討協議会調べ)

6) 農業農村整備事業の基盤整備状況

農業農村整備事業における基盤の整備状況は、畑の農道整備51.5%、かんがい施設整備31.2%、区画整理6.4%で田の区画整理は15.8%となっている。整備済みの農業水利施設については、本格的な保全対策を進めています。

1 畑（果樹園・普通畑）の整備状況

項目	年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
畑 面積 (ha)		25,400	25,300	25,100	24,800	24,600	24,500	24,400	24,200
農道整備済み面積 (ha)		12,167	12,175	12,204	12,253	12,344	12,348	12,359	12,458
整備率 (%)		47.9	48.1	48.6	49.4	50.2	50.4	50.7	51.5
畑地かんがい施設整備済み面積 (ha)		7,495	7,501	7,501	7,501	7,501	7,501	7,501	7,552
整備率 (%)		29.5	29.6	29.9	30.2	30.5	30.6	30.7	31.2
区画整理済み面積 (ha)		1,516	1,516	1,520	1,520	1,525	1,525	1,539	1,551
整備率 (%)		6.0	6.0	6.1	6.1	6.2	6.2	6.3	6.4

- ・農道整備済みとは、末端農道が整備された畑
- ・畑地かんがい施設整備済みとは、スプリンクラー等の施設が整備されている畑、及び、水源が確保され必要に応じて散水が可能な畑
- ・区画整理には、農地造成を含む

2 田の整備状況

項目	年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
田 面積 (ha)		11,400	11,200	10,900	10,700	10,600	10,500	10,300	10,100
区画整理済み面積 (ha)		1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,588	1,601
整備率 (%)		13.9	14.2	14.6	14.8	14.8	15.1	15.4	15.8

- ・区画整理には、30a未満の小区画を含む。

3 土地改良施設の整備状況

項目	年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
農業水利施設延長 (km)		682	682	682	682	682	682	682	682
保全対策済み延長		8	16	24	40	50	52	68	79
ため池の箇所数		5,566	5,566	5,566	5,566	5,566	5,453	5,453	5,453
整備済み箇所数		1,051	1,090	1,115	1,136	1,163	1,177	1,213	1,226
整備率 (%)		18.9	19.6	20.0	20.4	20.5	21.0	22.2	22.5
農業集落排水整備対象人口 (人)		63,388	62,742	61,878	45,003	45,921	45,321	44,781	44,425
整備済み人口		40,857	41,045	43,302	43,250	43,527	43,395	42,859	42,492
整備率 (%)		64.5	65.4	70.0	96.1	94.8	95.8	95.7	95.6
広域農道整備済み延長 (km)		64.6	65.8	66.9	68.3	68.9	69.8	70.4	71.5

- ・農業水利施設延長は、県営事業以上で造成された幹線施設延長
- ・広域農道の整備済み延長は供用開始済みの延長